

# IBM DB2 Web Query for IBM i

Version 2 Release 1.8

DN6000000.0514

Active Technologies、EDA、EDA/SQL、FIDEL、FOCUS、Information Builders、Information Builders のロゴ、iWay、iWay Software、Parlay、PC/FOCUS、RStat、Table Talk、Web390、WebFOCUS、WebFOCUS Active Technologies、および WebFOCUS Magnify は Information Builders, Inc. の登録商標であり、また DataMigrator および Hyperstage は同社の商標です。

本マニュアルの性質上、多くのハードウェア、ソフトウェア製品の商標が本文内で使用されています。ほとんどの場合、製品名はそれらの会社によって商標、登録商標として指定されています。したがって、弊社ではこれらの製品名を総称として使用する意図はありません。これらの製品名を、説明されている製品を参照する以外の目的で使用する場合、商標に関わる権利に関して十分注意が必要です。

Copyright © 2014 , by Information Builders, Inc. and iWay Software. All rights reserved. Patent Pending. このマニュアルの全部、または一部の転載、コピーは Information Builders Inc. の書面による承諾なしでは許可されません。

# 目次

はじめに.....	5
マニュアルの表記法.....	5
<b>1. HTML コンポーザの使用.....</b>	<b>7</b>
HTML コンポーザによるコントロール依存関係連鎖の設定.....	8
新規パラメータダイアログボックスによるパラメータの自動連鎖.....	9
パラメータタブのコントロール連鎖.....	18
連鎖への条件適用.....	24
コントロールの逐次入力.....	42
連鎖の区切りと行区切りの使用.....	45
<b>2. HTML コンポーザによる Active テクノロジダッシュボードおよび RIA の作成</b> .....	<b>51</b>
HTML コンポーザによる Active テクノロジダッシュボードの作成.....	52
Active テクノロジレポートへのオブジェクトの結合.....	53
HTML コンポーザによる Active テクノロジコントロールの構成.....	59
Active テクノロジレポートのリフレッシュ.....	69
Active テクノロジダッシュボードのエクスポート.....	72
Active テクノロジダッシュボードのスケジュールと配信.....	74
HTML コンポーザによる RIA の作成.....	75
RIA の概要.....	75
HTML コンポーザによる RIA の作成.....	76
RIA サンプル使用上の注意.....	98



# はじめに

このマニュアルは、IBM DB2 Web Query for IBM i で使用可能な機能について説明します。

## マニュアルの構成

このマニュアルは、以下の章で構成されています。

	章/付録	内容
<b>1</b>	HTML コンポーザの使用	ローカル開発環境で HTML コンポーザを使用して、ユーザインターフェースを作成する方法について説明します。
<b>2</b>	HTML コンポーザによる Active テクノロジダッシュボードおよび RIA の作成	HTML コンポーザを使用して Active テクノロジダッシュボードおよび RIA (リッチインターネットアプリケーション)を作成する方法について説明します。

## マニュアルの表記法

このマニュアルの表記法は、次のとおりです。

表記	説明
<code>THIS TYPEFACE</code> または <code>this typeface</code>	構文を表します。表記どおりに入力してください。
<code>this typeface</code>	プレースホルダ (または変数)、クロスリファレンス、あるいは重要な用語を表します。
<code>underscore</code>	デフォルトの設定を表します。

表記	説明
<b>this typeface</b>	テキスト中で小文字で指定する必要があるファイル名およびコマンドを強調しています。
Key + Key	キーを同時に押すことを示します。
{ }	2 から 3 つの選択項目を示します。選択項目の 1 つを中括弧 ( { }) を含めずに入力します。
[ ]	任意指定のパラメータ群を示します。必須ではありませんが、この中から 1 つを選択することも可能です。パラメータのみを入力し、大括弧 ([ ]) は含めません。コマンド名や、ユーザインターフェースで使われている項目は、この記号で囲みます。
	構文中で、いずれか 1 つ選択する項目群を分離します。分離記号 (   ) を含めず、いずれか 1 つのみ入力します。
...	パラメータを複数回入力可能であることを示します。省略記号 ( ... ) は含めず、パラメータのみを入力します。
. . .	間に省略されているコマンドがあるか、後続するコマンドがある (場合も指定できる) ことを表します。

# 1 HTML コンポーザの使用

## トピックス

- HTML コンポーザによるコントロール依存関係連鎖の設定

## HTML コンポーザによるコントロール依存関係連鎖の設定

### トピックス

新規パラメータダイアログボックスによるパラメータの自動連鎖

パラメータタブのコントロール連鎖

連鎖への条件適用

コントロールの逐次入力

連鎖の区切りと行区切りの使用

[パラメータ](Parameters) タブ上で、コントロールを相互に連鎖し、そのリンクに条件を適用することができます。連鎖を設定すると、連鎖内で前のコントロールで選択した値に基づいて、コントロールに値が入力されます。静的コントロールおよび動的コントロールに連鎖を設定することや、連鎖の一部へのリンクの設定と解除、連鎖内のリンクの設定、条件の作成が可能です。[デザイン](Design) タブまたは [パラメータ](Parameter) タブで、連鎖は、コントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。連鎖は、パラメータではなく、コントロールにのみ適用されます。

### 注意

- コントロールの連鎖は、[デザイン](Design) タブで設定することができますが、連鎖のリンクに条件を作成するには、[パラメータ](Parameters) タブを使用する必要があります。

連鎖のリンクのやじり部分をクリックすると、[プロパティと設定](Properties and settings) ダイアログボックスで、連鎖のプロパティや条件の設定と変更を行うことができます。

- 静的コントロールを使用する場合、連鎖のリンクそれぞれに、条件を適用する必要があります。連鎖元コントロールの各値に、条件を作成し、それらの値を、連鎖の設定先コントロールに表示される値に正しくマッピングする必要があります。



## 新規パラメータダイアログボックスによるパラメータの自動連鎖

### 手順/構文

新規パラメータダイアログボックスでコントロールに自動連鎖を設定するには  
新規パラメータダイアログボックスでコントロールに連鎖を設定するには

自動連鎖オプションを使用して、[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスで選択したコントロールに、自動的に連鎖を設定することができます。連鎖を設定すると、連鎖内で前のコントロールで選択した値に基づいて、コントロールに値が入力されます。自動連鎖オプションを使用することにより、連鎖および連鎖のリンクを自動的に作成することができます。

**注意：**自動連鎖では、条件を含まないデフォルト機能で、基本的な連鎖が作成されます。連鎖の条件は、[パラメータ] (Parameters) タブを使用して作成することができます。

デフォルト設定では、HTML ページにパラメータ付きレポートをインポートまたは参照して挿入する場合、コントロールの連鎖は設定されません。[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスの [連鎖コントロール] 列で、連鎖にコントロールを含めるか除外するかを、個別に選択することができます。

さらに、自動連鎖のオプションを選択した場合、[新規パラメータ] (New Parameter) ダイアログボックスのパラメータリストに、区切りが追加されます。区切りを使用してコントロールを複数の連鎖に分割します。さらに、区切りは、連鎖内で上下に移動することができます。

### 手順

#### 新規パラメータダイアログボックスでコントロールに自動連鎖を設定するには

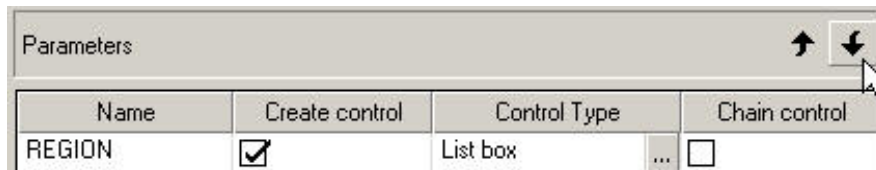
自動連鎖のオプションを使用して、連鎖または連鎖のリンクを自動的に作成します。自動連鎖オプションを選択すると、パラメータリストに区切りが追加されます。区切りを使用してコントロールを複数の連鎖に分割します。さらに、区切りは、連鎖内で上下に移動することができます。

1. HTML コンポーザで、HTML ページにパラメータ付きレポートをインポートまたは参照として挿入します。

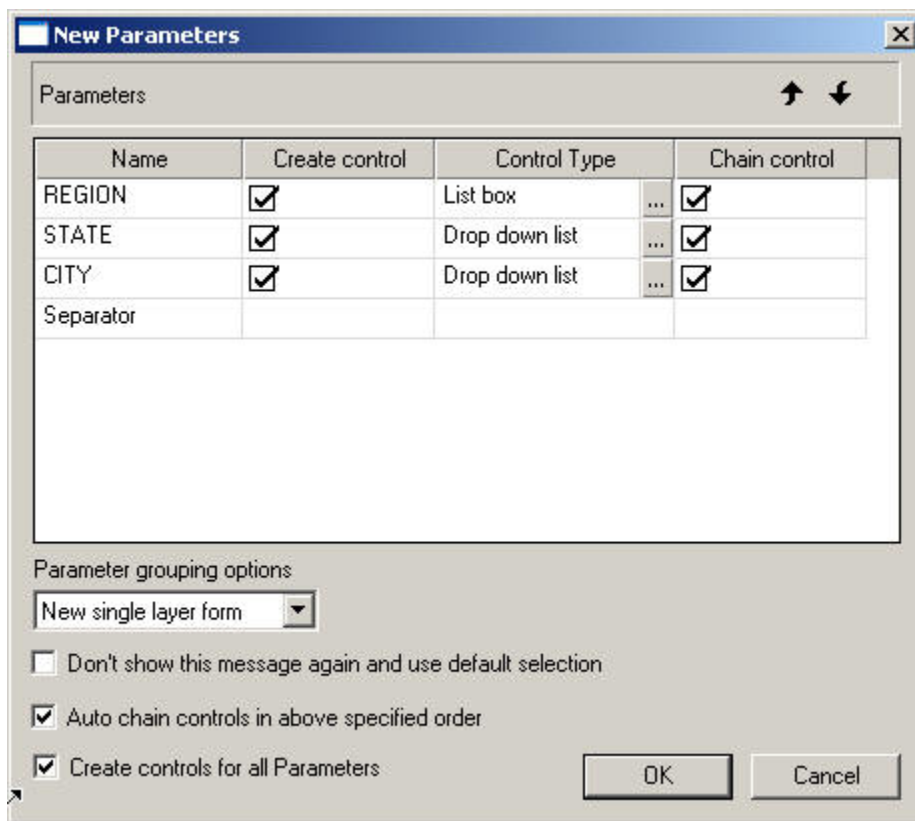
[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスが表示されます。

2. [上記の順序でコントロールに自動連鎖を設定する] (Auto chain controls in above specified order) を選択します。

ヒント：このオプションを選択する前に、上下の矢印を使用して、選択したコントロールの順序を変更しておくことができます。

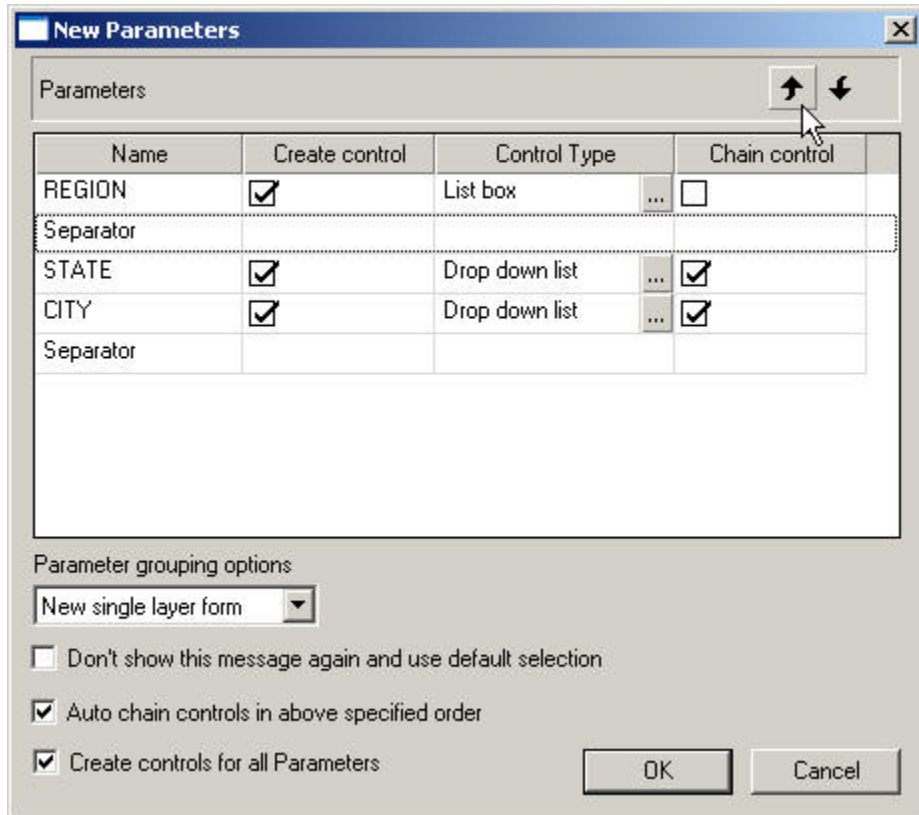


下図のように、すべてのコントロールの連鎖コントロールオプションは選択され、パラメータリストの最終オブジェクトとして [区切り] (Separator) が追加されます。



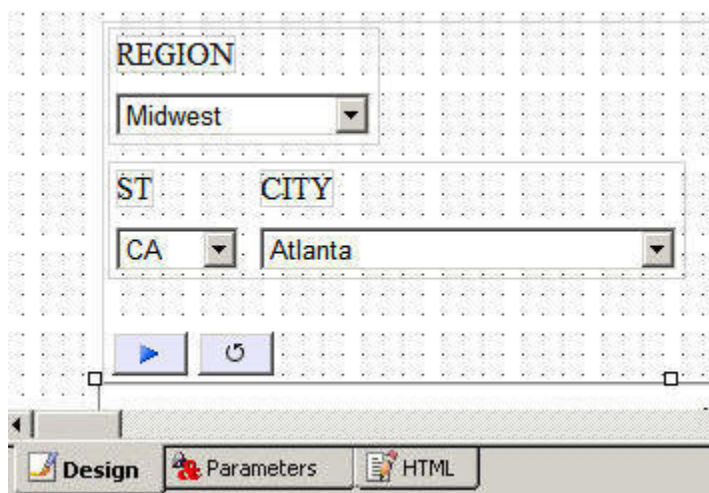
3. 複数の連鎖を作成するには、[区切り] (Separator) 行をクリックし、上下の矢印を使用して、連鎖での区切りの位置を変更します。

注意：デフォルトの区切りを上へ移動した場合、下図のように、リストの最後にもう1つの区切りを追加することができます。

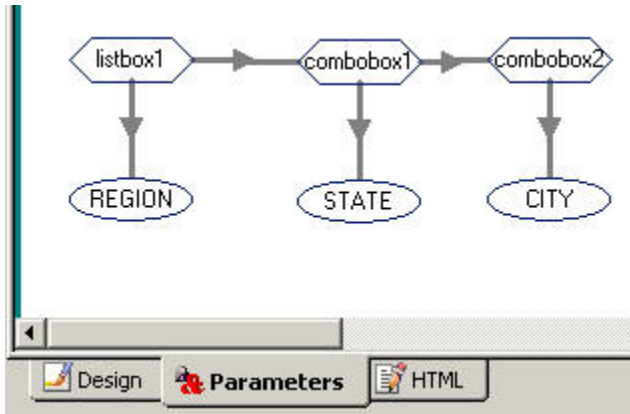


4. [OK] をクリックして、[新規パラメータ] (New Parameter) ダイアログボックスを閉じ、HTML ページにコントロールを追加します。

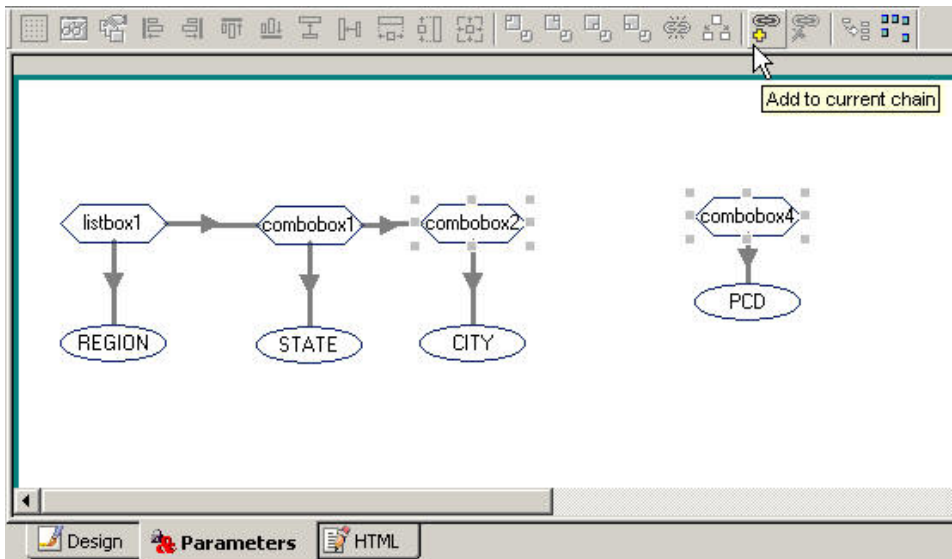
[デザイン] (Design) タブで、[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスで複数の連鎖を作成する際は、[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスで選択したグループ化オプションに関わらず、各連鎖パラメータセットは、新しい行に表示されます。この動作は、HTML コンポーザの [フォームの設定] (Form Settings) ダイアログボックスの [各連鎖を別の行に配置] (Start each chain on a new line) オプションで設定します。下図の例では、連鎖で最初のリンク (REGION) は、1 行で表示されています。2 つ目の連鎖 (ST および CITY) は、[デザイン] (Design) タブのコントロール内で別の行に配置されています。これにより、フォーム内の連鎖の関係が分かります。[各連鎖を別の行に配置] (Start each chain on a new line) は、デフォルト設定で選択されています。



[パラメータ] (Parameters) タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトの接続線として表示されます。たとえば、REGION フィールドで選択した値は、STATE フィールドで使用可能な値を入力します。STATE フィールドで選択した値は、この連鎖の CITY フィールドで使用可能な値を入力します。



5. 別のフィルタが追加された場合、[配置] (Positioning) ツールバーの連鎖のボタンを使用して、選択したコントロールを現在の連鎖に追加したり、連鎖から削除したりします。



### 手順

#### 新規パラメータダイアログボックスでコントロールに連鎖を設定するには

[連鎖コントロール] (Chain control) 列を使用して、[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスのコントロールを連鎖に含めるか、除外するかを、個別に設定することができます。

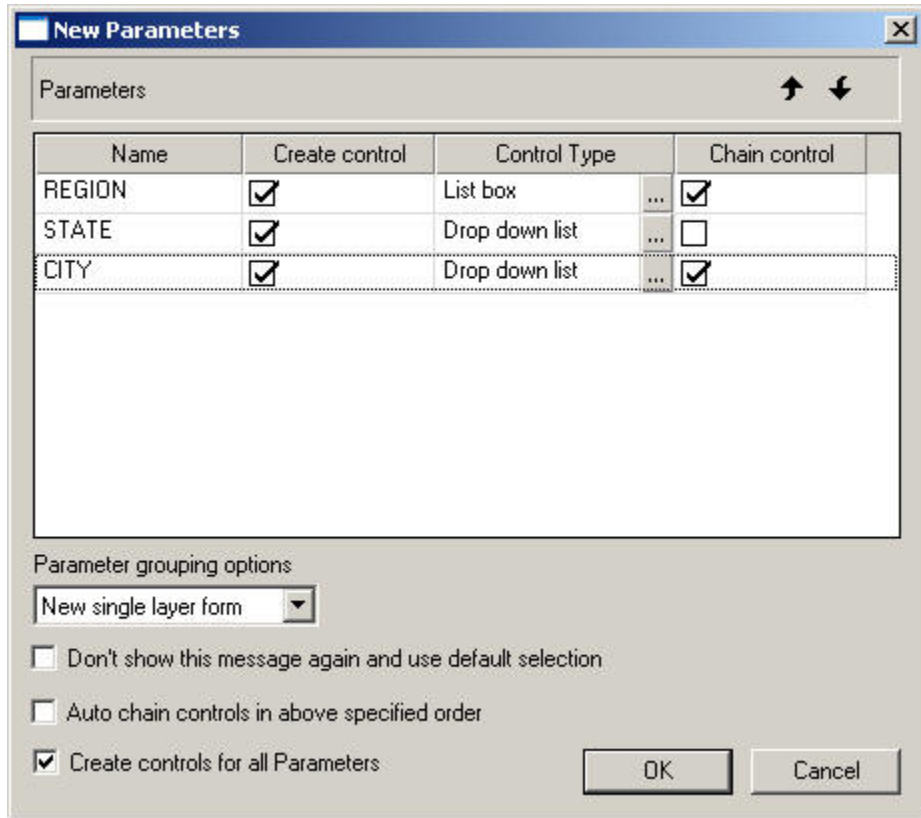
1. HTML コンポーザで、HTML ページにパラメータ付きレポートをインポートまたは参照として挿入します。

[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスが表示されます。

2. 連鎖に含めるコントロールの [連鎖コントロール] (Chain control) のチェックをオンにします。

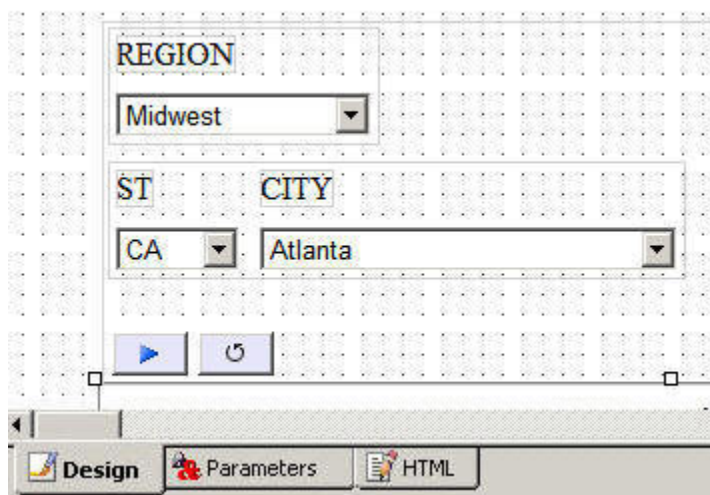
コントロールの連鎖は、[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスに表示される順序で設定されます。コントロールに連鎖を設定する前に、上下の矢印を使用して、選択したコントロールの順序を変更しておくことができます。

**注意：**コントロールを連鎖から除外した場合は、連載は選択されたコントロールのみに、自動的にリンクされます。下図の例では、REGION および CITY が、連鎖のリンクとして表示されています。



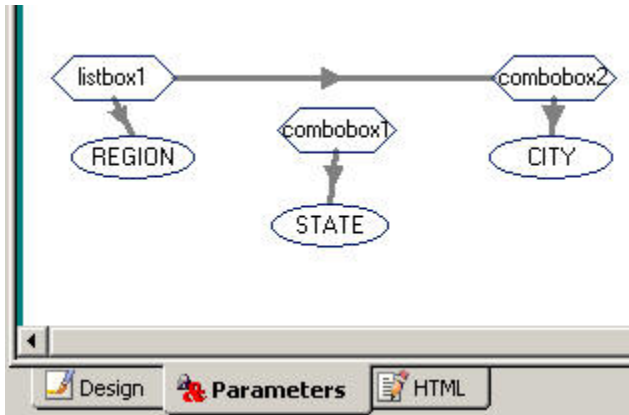
3. [OK]をクリックして、[新規パラメータ](New Parameter) ダイアログボックスを閉じ、HTML ページにコントロールを追加します。

[デザイン] (Design) タブで、[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスで複数の連鎖を作成する際は、[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスで選択したグループ化オプションに関わらず、各連鎖パラメータセットは、新しい行に表示されます。この動作は、HTML コンポーザの [フォームの設定] (Form Settings) ダイアログボックスの [各連鎖を別の行に配置] (Start each chain on a new line) オプションで設定します。下図の例では、連鎖で最初のリンク (REGION) は、1 行で表示されています。2 つ目の連鎖 (ST および CITY) は、[デザイン] (Design) タブのコントロール内で別の行に配置されています。これにより、フォーム内の連鎖の関係が分かります。[各連鎖を別の行に配置] (Start each chain on a new line) は、デフォルト設定で選択されています。

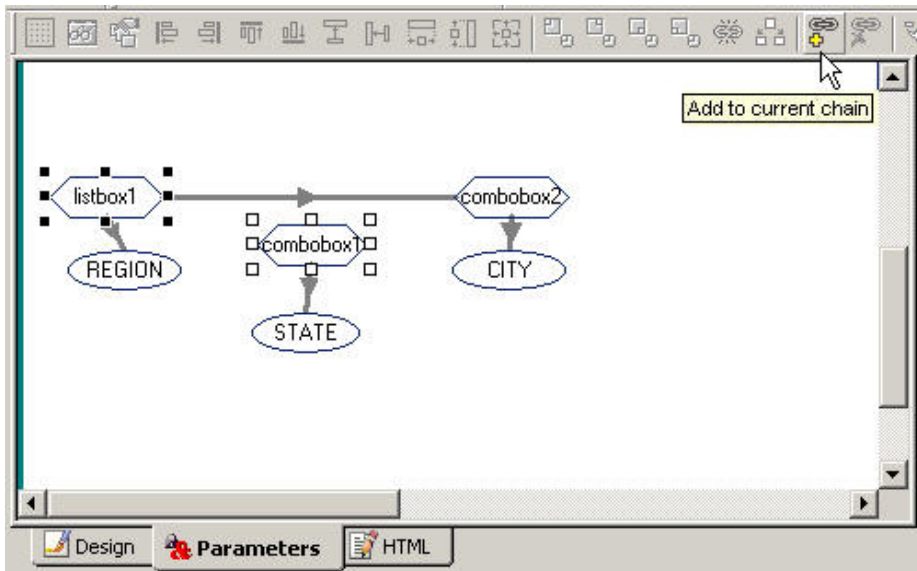




[パラメータ] (Parameters) タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトの接続線として表示されます。たとえば、REGION フィールドで選択した値は、この連鎖の CITY フィールドで使用可能な値を入力します。



4. [配置] (Positioning) ツールバーの連鎖のボタンを使用して、選択したリンクを現在の連鎖に追加したり、連鎖から削除したりできます。



### パラメータタブのコントロール連鎖

#### 手順/構文

パラメータタブでコントロール間に連鎖を設定するには

連鎖のリンクを削除するには

連鎖コントロールを逆順にソートするには

連鎖により、2つ以上の値を関連付けることができます。コントロールを関連付けると、各パラメータコントロールに対して選択が行われるたびに、関連付けられた値にフィルタが設定されます。たとえば、PLANTパラメータをSTATEパラメータに連鎖させると、データソース内のすべてのPLANTではなく、現在選択しているSTATEパラメータのPLANT値のみが選択可能になります。選択が行われるたびに、後続の連鎖コントロールがすべて動的に更新されます。連鎖内のコントロールを追加、削除、ソートすることもできます。

値はキャッシュメカニズムにより処理され、必要な値はすべてページをロードする前に収集されます。この方法は、必要なリクエストをすべて1つのHTTPリクエストに自動的に統合し、結果セットをそれぞれに該当するコントロールにマッピングするため、複数のデータリクエストの送信に要するロード時間を大幅に短縮します。

#### 手順

#### パラメータタブでコントロール間に連鎖を設定するには

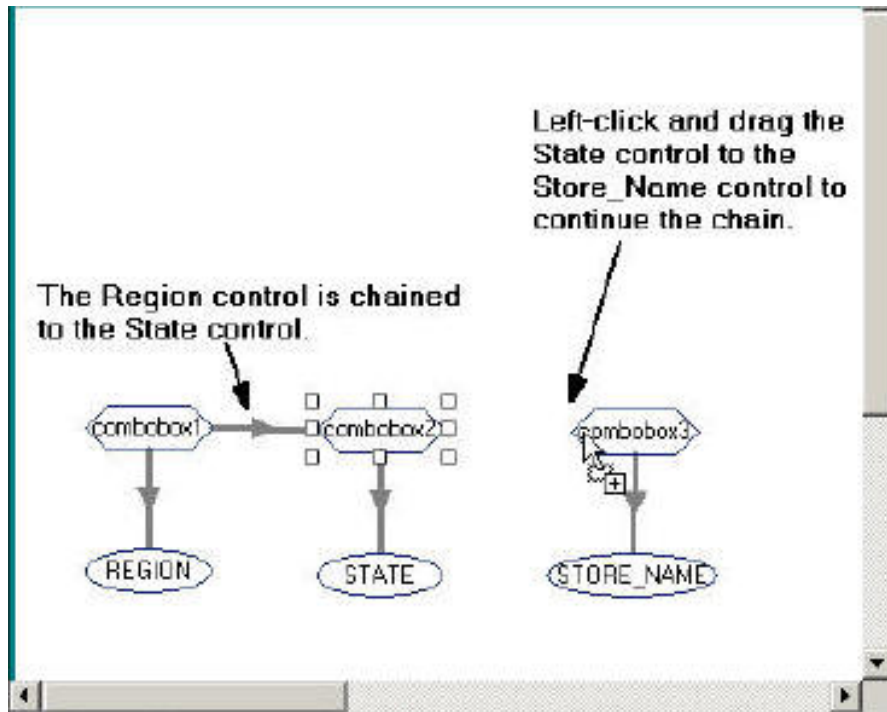
1. 入力コントロールを使用して、パラメータ値を提供するHTMLページを作成します。  
詳細は、「[Using Input Controls to Supply Parameter Values](#)」を参照してください。
2. [パラメータ] (Parameters) タブをクリックします。
3. コントロールオブジェクトの中央を選択してクリックし、連鎖内の次のコントロールオブジェクトの中央にドラッグしてマウスボタンを離すと、連鎖のバインドが完成します。

連鎖内の各リンクでこの手順を繰り返します。

**ヒント：**必要に応じて、[配置] (Positioning) ツールバーを使用して、連鎖にコントロールを追加することや、連鎖からコントロールを削除することができます。ドラッグアンドドロップ操作と[連鎖] (Chaining) アイコンによる連鎖オプションは、連動します。連鎖は、作成したときとは異なる方法でも削除することができます。連鎖アイコンについての詳細は、「[Positioning Toolbar](#)」を参照してください。

下図のように、連鎖コントロールが表示されます。矢印の方向に注意してください。

- [REGION] コントロールは、連鎖の最初のリンクを開始し、[STATE] コントロールとの連鎖を設定します。
- [STATE] コントロールは連鎖の2つ目のリンクを開始し、[STORENAME] コントロールに連鎖されています。



ヒント：連鎖内のパラメータの順序を逆にすることもできます。詳細は、20 ページの「[連鎖コントロールを逆順にソートするには](#)」を参照してください。

4. 必要に応じて、連鎖に条件設定を適用し、パラメータの入力方法を指定することができます。

静的コントロールを使用する場合、連鎖のリンクそれぞれに、条件を適用する必要があります。連鎖元コントロールの各値に条件を作成し、それらの値を連鎖の設定先コントロールに表示される値に正しくマッピングする必要があります。

条件についての詳細は、24 ページの「[連鎖への条件適用](#)」を参照してください。

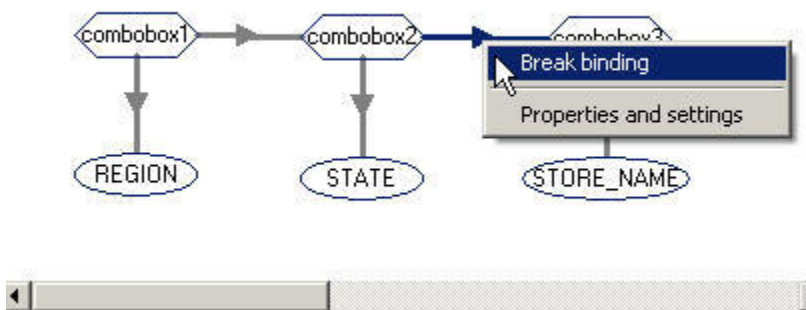
### 手順 連鎖のリンクを削除するには

[パラメータ] (Parameters) タブの連鎖を削除するには、次の手順を実行します。

- 矢印の矢じり部分を選択します。
- 右クリックして [バインディングの解除] (Break binding) を選択します。

削除するすべての連鎖で、この手順を繰り返します。

**ヒント：**必要に応じて、[配置] (Positioning) ツールバーを使用して、連鎖にコントロールを追加することや、連鎖からコントロールを削除することができます。ドラッグアンドドロップ操作と [連鎖] (Chaining) アイコンによる連鎖オプションは、連動します。連鎖は、作成したときとは異なる方法でも削除することができます。連鎖アイコンについての詳細は、「[Positioning Toolbar](#)」を参照してください。



### 手順 連鎖コントロールを逆順にソートするには

[パラメータ] (Parameters) タブで連鎖コントロールを逆順にソートするには

1. 線上のやじり部分を選択して、線が太字になったところで右クリックし、[バインディングの解除] (Break binding) を選択します。
2. コントロールオブジェクトの中央を選択してクリックし、連鎖内の次のコントロールオブジェクトの中央にドラッグしてマウスボタンを離すと、連鎖のバインドが完成します。

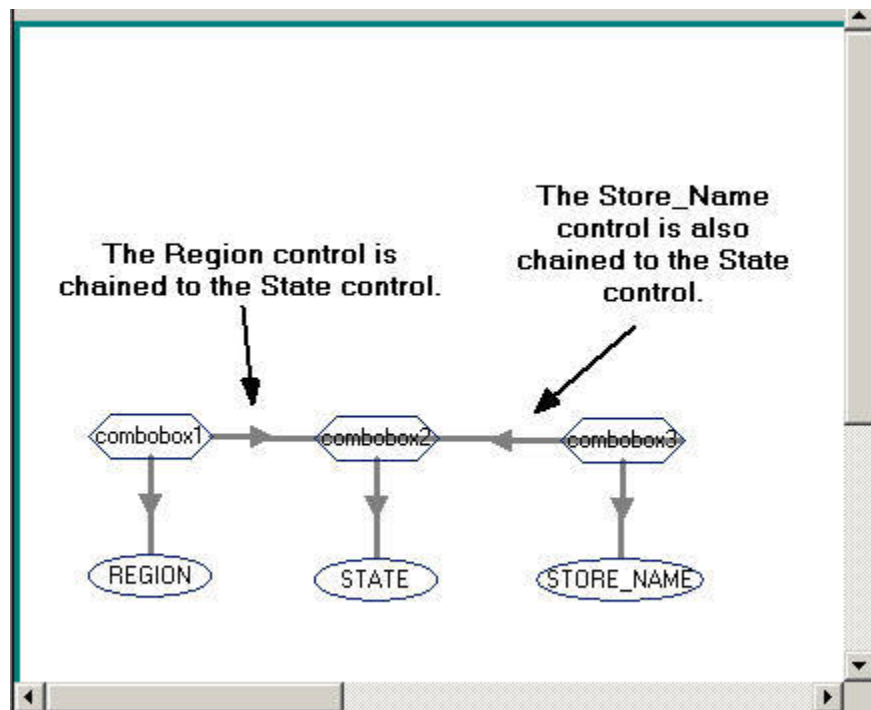
コントロールオブジェクト間の矢印の方向に注意してください。連鎖内で各リンクの方向を逆にすることで、連鎖のリンク方向、または連鎖の順序を逆にすることができます。

- a. 連鎖内のリンクの方向を逆にする場合は、コントロールオブジェクトをクリックし、目的の順序にドラッグします。

下図の例では、コントロールは次のように設定されています。

- [REGION] コントロールは、連鎖で最初のリンクを開始し、[STATE] コントロールとの連鎖を設定します。
- [STORENAME] コントロールは、連鎖で 2 つ目のリンクを開始し、[STATE] コントロールと連鎖しています。

**注意：**[Region] を連鎖から削除し、[Store\_Name] によって [State] が制御されるようにするには、条件が必要です。条件についての詳細は、24 ページの「[連鎖への条件適用](#)」を参照してください。



- b. 連鎖の順序を逆にするには、コントロールオブジェクトをクリックし、目的の順序にドラッグします。

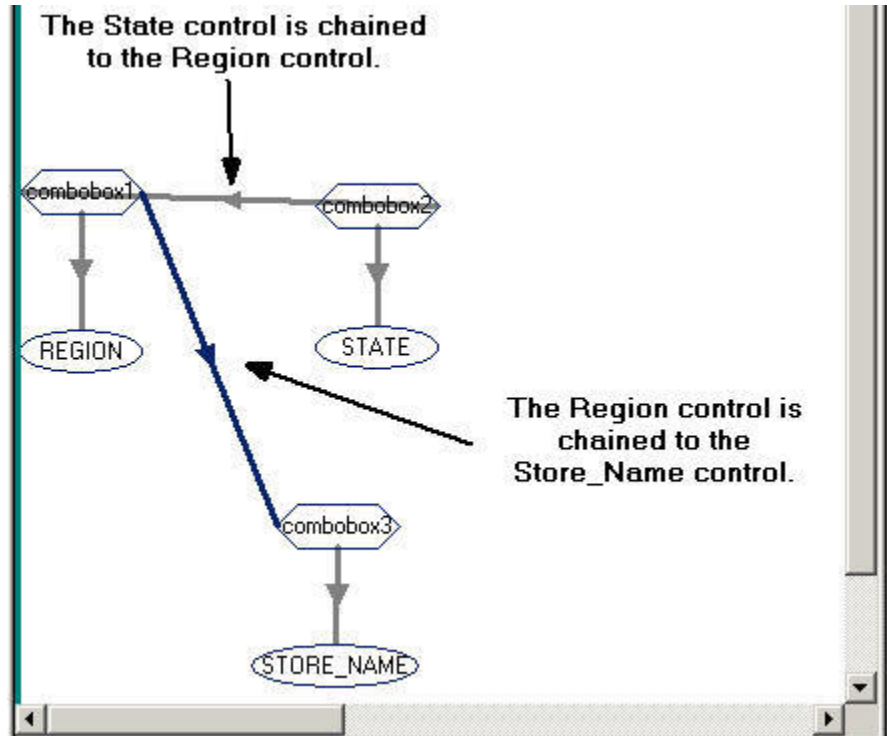
ヒント：連鎖値の順序を変更する際に、[パラメータ] (Parameters) デフォルト設定のタブの配置を変えると、連鎖の方向が見やすくなります。[パラメータ] (Parameters) タブのオブジェクトを移動しても、レイアウトの [デザイン] 表示に影響はありません。

- Shift キーを押しながら、コントロールオブジェクトおよびバインド済みのパラメータを選択し、オブジェクトをセットとして移動します。



- 複数のコントロールオブジェクトに連鎖を設定します。

下図の例では、[State] コントロールで最初のリンクが開始され、[Region] コントロールと連鎖しています。[REGION] コントロールは、連鎖で 2 つ目のリンクを開始し、[STORENAME] コントロールと連鎖しています。



3. 必要に応じて、連鎖に条件設定を適用し、パラメータの入力方法を指定することができます。

条件についての詳細は、24 ページの「[連鎖への条件適用](#)」を参照してください。

### 連鎖への条件適用

#### 手順/構文

新しい条件を作成するには

条件のアクションを選択するには

条件の値比較演算子を選択するには

条件に複数選択演算子を含む選択値を適用するには

条件のパラメータを決定するには

パラメータの比較演算子を選択するには

連鎖値のキャッシュ処理を有効にするには

#### 参照

プロパティと設定ダイアログボックス (条件)

連鎖の各リンクには、条件が設定されています。条件は、コントロールオブジェクトで選択された値とリンクしています。複数の条件をリンクに適用することができます。条件のプロパティと設定には、リンクの動作方法が記述されています。次のオプションがあります。

- 連鎖のリンクに [アクション] (Action) を適用します。
- 条件に [値の比較演算子] (Values compare operator) を適用します。
- [複数選択演算子] (Multiselect operator) で [選択値] (Selected) に条件を適用します。
- 条件に [パラメータの解決] (Resolves parameter) の値を適用します。
- 条件に [パラメータの比較演算子] (Parameter's compare operator) を適用します。

静的コントロールを使用する場合、連鎖のリンクそれぞれに、条件を適用する必要があります。連鎖元コントロールの各値に条件を作成し、それらの値を連鎖の設定先コントロールに表示される値に正しくマッピングする必要があります。

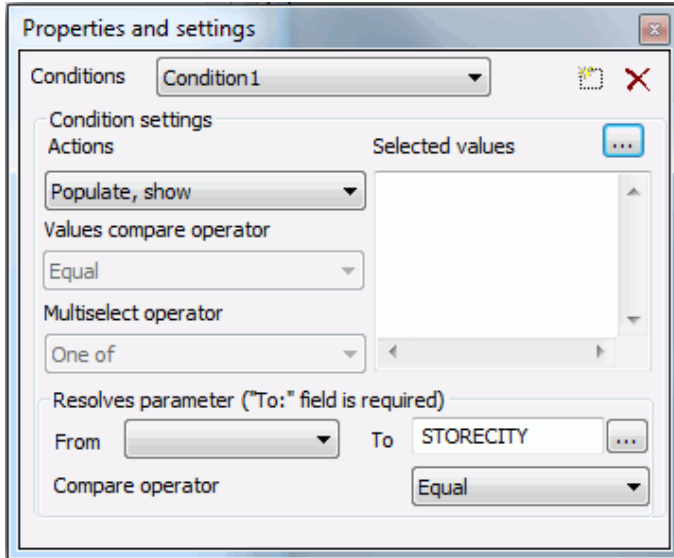
#### 参照

#### プロパティと設定ダイアログボックス (条件)

[パラメータ] (Parameters) タブで連鎖リンクの条件を作成する際、[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが開きます。連鎖の各リンクには、条件が設定されています。



条件は、コントロールオブジェクトで選択された値とリンクしています。条件のプロパティと設定は、以前のバインドコントロール値を継承し、追加の条件設定を提供します。ここでは、追加の条件設定について説明します。



条件を作成する際の [プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスには、次の項目とオプションが表示されます。

### 条件 (Condition)

条件リストにより、リンクに複数の条件を作成することができます。初期条件としては、[デフォルト] (Default) のみが設定されます。

- 新しい条件を作成するには、[新規] (New) アイコンをクリックします。「Conditionn」という条件が作成され、[条件] (Conditions) ドロップダウンリストに追加されます。ここで、末尾の「n」には番号が割り当てられます。一意の条件名を入力し、選択した値を選択して、条件を設定することができます。
- [削除] (Delete) アイコンをクリックし、リストから選択した条件を取り除きます。[デフォルト] (Default) 条件名は削除不可能であることに注意してください。

### アクション (Action)

連鎖をコントロールとリンクするアクションを選択します。値の入力、表示、非表示、実行、選択オプションがあります。利用可能なオプションは次のとおりです。

- **入力、表示 (Populate, show)** コントロールに入力し、実行時に表示します。これはすべての条件のデフォルトアクション設定です。
- **入力、非表示 (Populate, hide)** コントロールに入力し、実行時に表示しません。
- **代替値の入力、表示 (Populate with alternate, show)** プロシジャまたは値リストから継承した代替値をコントロールに入力します。デフォルト設定ではなく、実行時にコントロールを表示します。
- **代替値の入力、非表示 (Populate with alternate, hide)** プロシジャまたは値リストから継承した代替値をコントロールに入力します。デフォルト設定ではなく、実行時にコントロールを表示しません。
- **表示 (Show)** コントロールを表示しますが、入力しません。
- **非表示 (Hide)** コントロールを非表示にしますが、入力しません。
- **実行 (Execute)** バインドされたオブジェクトを実行します。たとえば、コントロールを [実行] (Submit) ボタンにバインド後、実行時にそのコントロールの値を変更すると、値が変更されたところで、[実行] (Submit) ボタンをクリックしなくても、レポートまたはグラフが自動的に実行されます。
- **選択 (Select)** バインドするオブジェクトを選択します。たとえば、コントロールをタブ項目にバインド後、実行時にそのコントロールの値を選択すると、バインドされたオブジェクト (タブ項目) は、ページのアクティブタブとして、自動的に選択されます。

### 値の比較演算子 (Values compare operator)

値の比較演算子では、「等しくない」、「より大きい」、「より小さい」などの連鎖論理を使用することができます。このオプションは、リンクされたコントロールに値を入力する方法を設定するものです。

[等しい] (Equal) が、デフォルト設定の値の比較演算子です。

### 選択した値 (Selected values)

[選択した値] (Selected values) により、条件で使用された値を入力することができます。新しい条件を作成する場合、[選択した値] (Selected values) セクションがアクティブになります。テキストボックスに選択値を入力することや、[...] (参照) ボタンをクリックしてリストから値を選択することができます。

表示される値リストは、前の連鎖内バインドコントロール値に基づいて入力されません。

選択した値が入力されると、複数選択演算子がアクティブになります。

### 複数選択演算子 (Multiselect operator)

複数選択演算子オプションは、選択した値が条件に入力されたときに有効になります。オプションには、[単一] (One of)、[すべて] (All of) があります。[単一] (One of) は、[選択した値] (Selected values) に表示される、連鎖内の以前のコントロールで選択された値の 1 つに基づいています。[すべて] (All of) は、[選択した値] (Selected values) に表示される、連鎖内の以前のコントロールで選択された値のすべてに基づいています。

デフォルト設定の複数選択演算子は、[単一] (One of) です。

### パラメータの解決 ([開始] フィールドは必須です) (Resolves parameter (“To: field is required”))

**開始 (From)** [開始] (From) フィールドでは、コントロールの連鎖元がマップコントロールまたは ActiveX コントロールの場合に、[終了] (To) フィールドで使用する値の取得元を指定します。

**終了 (To)** [終了] (To) フィールドは、連鎖先コントロールの値の入力に使用する選択リストの動的生成に使用されます。このテキストボックスには、条件の評価を決定するパラメータが表示されます。連鎖内で、前のコントロールにリンクしたパラメータ名は、デフォルト設定で表示されます。[...] (参照) ボタンを押すと、(レポート内で) 解決可能なその他のパラメータ値が表示されたダイアログボックスが開きます。

### パラメータの比較演算子 (Parameter's compare operator)

パラメータの比較演算子では、「等しくない」、「より大きい」、「より小さい」などの連鎖論理を使用することができます。これにより、比較演算子がコントロールに入力されるよう設定されます。

デフォルト設定のパラメータ比較演算子は、[等しい] (Equal) です。

データタイプ値の [プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスオプションについての詳細は、「[Properties and Settings \(Incoming Static Parameter and Unbound Control\)](#)」、「[Properties and Settings Dialog Box \(Dynamic Values\)](#)」を参照してください。

## 手順

### 新しい条件を作成するには

1. HTML レイアウトペインタに、パラメータ付きのレポートを挿入します。

パラメータの作成についての詳細は、「[Creating Parameter Values](#)」を参照してください。

2. [パラメータ] (Parameters) タブで、コントロールオブジェクトをクリックしてからドラッグし、連鎖を作成します。

[パラメータ] (Parameters) タブでは、連鎖は、コントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。

連鎖コントロールにより、連鎖で選択済みのコントロール値に基づいて、実行時にパラメータに値が入力されます。連鎖コントロールについての詳細は、18 ページの「[パラメータタブのコントロール連鎖](#)」を参照してください。

3. 連鎖内のリンクをクリックします。

[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが開き、バインドコントロール値と、連鎖内のリンクの[デフォルト] (Default) 条件設定が表示されます。

4. [新規] (New) アイコンをクリックし、連鎖に複数の条件を作成します。

Conditionn (「n」は数字) が作成されて[条件] (Conditions) ドロップダウンリストに追加され、[選択した値] (Selected values) セクションが有効になります。一意の条件名を入力することができます。

5. 新しい条件の一意の名前を入力して選択値を選択後、条件設定を指定することができます。
6. 必要に応じて、[削除] (Delete) ボタンをクリックし、選択した条件をリストから削除することができます。

**注意：**[デフォルト] (初期条件) を削除することはできません。

7. [プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスを閉じます。

### 手順

#### 条件のアクションを選択するには

1. HTML レイアウトペインタに、パラメータ付きのレポートを挿入します。

パラメータの作成についての詳細は、「[Creating Parameter Values](#)」を参照してください。

2. [パラメータ] (Parameters) タブで、コントロールオブジェクトをクリックしてからドラッグし、連鎖を作成します。

[パラメータ] (Parameters) タブでは、連鎖は、コントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。

連鎖コントロールにより、連鎖で選択済みのコントロール値に基づいて、実行時にパラメータに値が入力されます。連鎖コントロールについての詳細は、18 ページの「[パラメータタブのコントロール連鎖](#)」を参照してください。

3. 連鎖内のリンクをクリックします。

[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが開き、バインドコントロール値、および連鎖内のリンクの条件設定が表示されます。

4. [アクション] (Actions) ドロップダウンリストで、条件のアクションを選択します。たとえば、[非表示] (Hide) を選択し、連鎖したコントロールを非表示にします。

デフォルト設定のオプションは、[入力、表示] (Populate, show) です。

5. [プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスを閉じます。

HTML ページ実行時に、連鎖コントロールのアクションが適用されます。

## 手順

### 条件の値比較演算子を選択するには

1. HTML レイアウトペインタに、パラメータ付きのレポートを挿入します。

パラメータの作成についての詳細は、「[Creating Parameter Values](#)」を参照してください。

2. [パラメータ] (Parameters) タブで、コントロールオブジェクトをクリックしてからドラッグし、連鎖を作成します。

[パラメータ] (Parameters) タブでは、連鎖は、コントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。

連鎖コントロールにより、連鎖で選択済みのコントロール値に基づいて、実行時にパラメータに値が入力されます。連鎖コントロールについての詳細は、18 ページの「[パラメータタブのコントロール連鎖](#)」を参照してください。

3. 連鎖内のリンクをクリックします。

[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが開き、バインドコントロール値、および連鎖内のリンクの条件設定が表示されます。

4. 条件内の [値の比較演算子] (Values compare operator) ドロップダウンリストから、連鎖されたパラメータの連鎖論理を選択します。

デフォルトのオプションは、[等しい] (Equal) です。

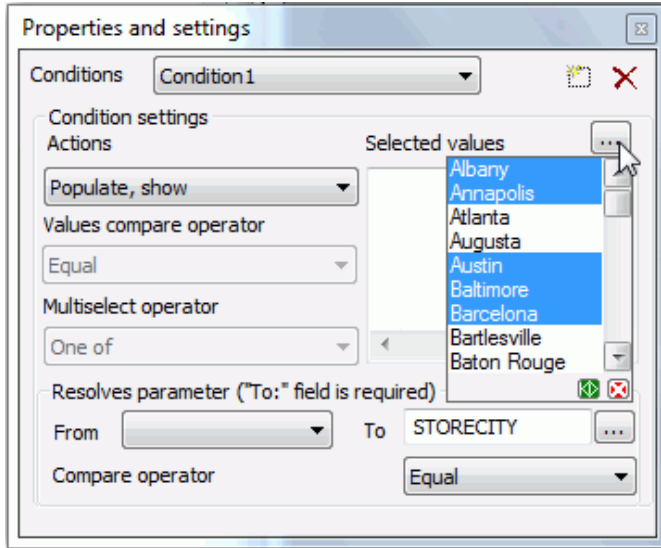
5. [プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスを閉じます。  
選択した値に比較演算子が適用されます。

### 手順

#### 条件に複数選択演算子を含む選択値を適用するには

1. HTML レイアウトペインタに、パラメータ付きのレポートを挿入します。  
パラメータの作成についての詳細は、「[Creating Parameter Values](#)」を参照してください。
2. [パラメータ] (Parameters) タブで、コントロールオブジェクトをクリックしてからドラッグし、連鎖を作成します。  
[パラメータ] (Parameters) タブでは、連鎖は、コントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。  
連鎖コントロールにより、連鎖で選択済みのコントロール値に基づいて、実行時にパラメータに値が入力されます。連鎖コントロールについての詳細は、18 ページの「[パラメータタブのコントロール連鎖](#)」を参照してください。
3. 連鎖内のリンクをクリックします。  
[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが開き、バインドコントロール値、および連鎖内のリンクの条件設定が表示されます。
4. [新規] (New) アイコンをクリックし、連鎖に複数の条件を作成します。  
Conditionn (「n」は数字) が作成されて[条件] (Conditions) ドロップダウンリストに追加され、[選択した値] (Selected values) セクションが有効になります。一意の条件名を入力することができます。
5. テキストボックスに選択値を入力することや、[...] (参照) ボタンをクリックしてリストから値を選択することができます。  
表示される値リストは、前の連鎖内バインドコントロール値に基づいて入力されます。

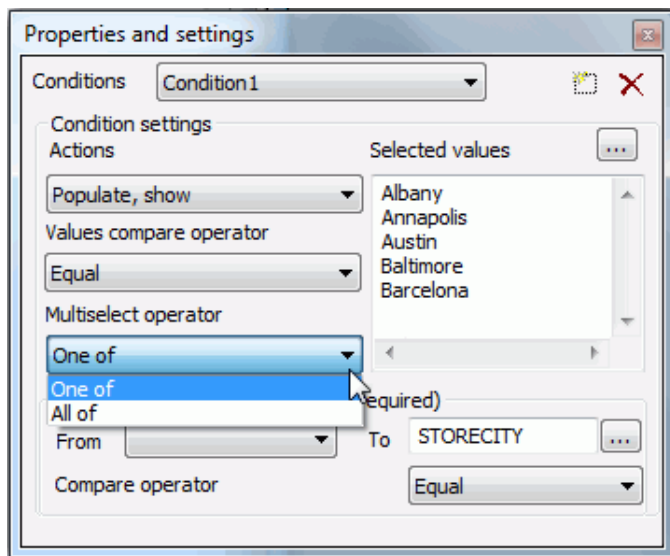
ヒント：ポップアップアイコンを使用してフィールドを選択し、ポップアップダイアログボックスを閉じることもできます。緑のアイコンは「OK」、赤のアイコンは「キャンセル」を示します。値をダブルクリックすると、その値が選択され、ボタンを使用しなくてもダイアログボックスが閉じます。また、ダイアログボックスを閉じるには、Esc キーを押すこともできます。



選択した値が入力されると、複数選択演算子がアクティブになります。

6. [複数選択演算子] (Multiselect operator) ドロップダウンリストで、選択した値の連鎖論理を選択します。
  - [単一] (One of) は、[選択値] (Selected values) に表示される、連鎖内の以前のコントロールで選択された値の 1 つに基づいています。このオプションがデフォルト設定で選択されています。

- [すべて] (All of) は、[選択した値] (Selected values) に表示される、連鎖内の前のコントロールで選択された値のすべてに基づいています。



7. [プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスを閉じます。  
選択値と複数選択演算子が条件に適用されます。

### 例 複数選択演算子「すべて」の使用

次の例では、複数選択演算子「すべて」を使用して、条件付き連鎖を実行する方法について説明します。この例では、listbox2 に複数選択 listbox1 からの連鎖を設定します。listbox2 に条件付き連鎖を設定し、listbox1 で選択した値がすべて指定した条件に一致する場合に、listbox2 が表示されるようにします。選択した値で条件に一致しないものが含まれる場合、listbox2 は非表示になります。

1. HTML ページを作成します。
  - a. Developer Workbench のエクスプローラで、プロジェクトから [HTML ファイル] (HTML Files) フォルダを選択します。
  - b. 右クリックして、[新規作成] (New)、[HTML ファイル] (HTML File) を選択します。  
[HTML ファイルの追加] (Add HTML File) ダイアログボックスが表示されます。
  - c. [ファイル名] (File name) テキストボックスに「allof\_example」と入力し、[開く] (Open) をクリックします。



[テンプレートの選択] (Template selector) ウィンドウが開きます。

- d. テンプレートを使用せずにブランクの HTML ページを作成する場合は、[キャンセル] (Cancel) をクリックします。

HTML コンポーザが開きます。

- 2. 作業領域に複数選択リストボックスを追加して、このデータが CAR データソースから動的に入力されるようにします。

- a. [挿入] (Insert) メニューから、[コントロール] (Controls)、[リストボックス] (List Box) を順に選択します。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。

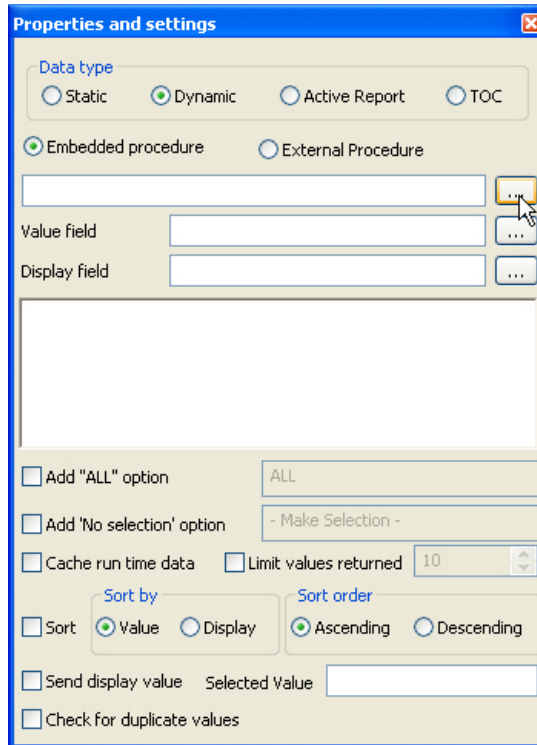
- b. 十字カーソルをドラッグしてリストボックスを作成し、必要なサイズに調整します。

- c. [表示] (View) メニューから [プロパティと設定] (Properties and settings) を選択します。

[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが表示されます。

- d. [データタイプ] (Data type) として [動的] (Dynamic) ラジオボタンを選択します。

- e. 下図のように、[埋め込みプロシジャ] (Embedded procedure) の [...] (参照) ボタンをクリックします。



- f. [ファイルを選択してください] (Get source file) ダイアログボックスで CAR マスターファイルを選択し、[開く] (Open) をクリックします。
- g. [値フィールド] (Value field) の [...] (参照) ボタンをクリックします。
- h. ドロップダウンメニューから [SEATS] を選択します。
- i. [プロパティ] (Properties) ウィンドウで、[デフォルトの選択] (Default selection) プロパティを [いいえ] (No) に設定します。
- j. [プロパティ] (Properties) ウィンドウで、[複数値の選択] (Multiple) プロパティを [複数値の選択] (Multiple) に設定します。

これで、listbox1 が複数選択リストボックスになります。

- 3. 作業領域に 2 つ目のリストボックスを追加して、このデータが CAR データソースから動的に入力されるようにします。

- a. [挿入] (Insert) メニューから、[コントロール] (Controls)、[リストボックス] (List Box) を順に選択します。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。

- b. 十字カーソルをドラッグしてリストボックスを作成し、必要なサイズに調整します。
- c. [表示] (View) メニューから [プロパティと設定] (Properties and settings) を選択します。

[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが表示されます。

- d. [データタイプ] (Data type) として [動的] (Dynamic) ラジオボタンを選択します。
  - e. [埋め込みプロシジャ] (Embedded procedure) の [...] (参照) ボタンをクリックします。
- [ファイルを選択してください] (Get source file) ダイアログボックスが表示されます。

- f. car マスターファイルを選択し、[開く] (Open) をクリックします。
- g. [値フィールド] (Value field) の [...] (参照) ボタンをクリックします。
- h. ドロップダウンメニューから [CAR] を選択します。

#### 4. これらのリストボックスに連鎖を設定します。

- a. 作業領域で、listbox1 を選択します。

リストボックスの周囲に、サイズ変更用の記号が表示されます。

- b. Ctrl キーを押しながら listbox2 を選択します。

両方のリストボックスの周囲に、サイズ変更用の記号が表示されます。

- c. 下図のように、[ユーティリティ] (Utilities) ツールバーから [現在の連鎖に追加] (Add to current chain) を選択します。



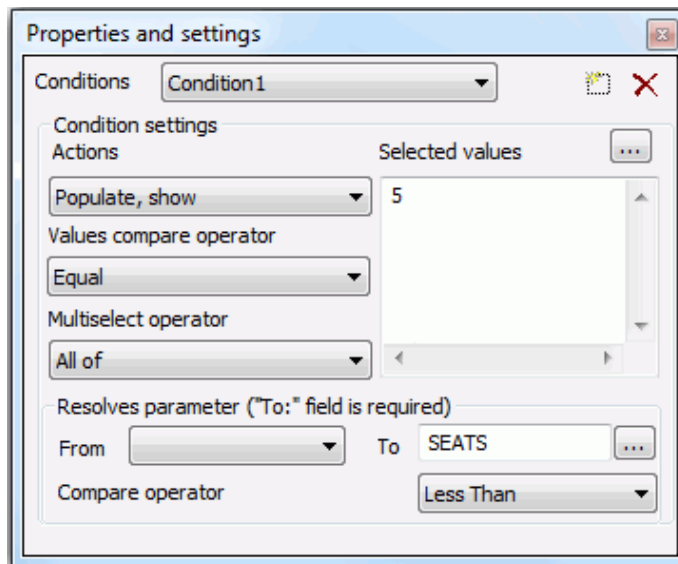
#### 5. 連鎖の条件を設定します。

- a. [パラメータ] (Parameters) タブをクリックします。

- b. listbox1 と listbox2 を接続する矢印を右クリックし、[プロパティと設定] (Properties and settings) を選択します。

[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが表示されます。

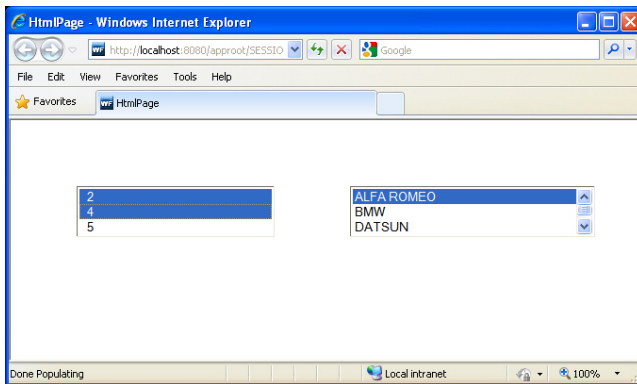
- c. [条件] (Conditions) として [デフォルト] (Default) が選択されていることを確認し、[アクション] (Actions) を [非表示] (Hide) に設定します。
- d. 新しい条件を作成するには、[新規条件] (New Condition) ボタンをクリックします。
- e. 新しい条件として、次のプロパティを設定します。
  - 選択した値 (Selected values) - 5
  - アクション (Actions) - 入力、表示 (Populate, show)
  - 値の比較演算子 (Values compare operator) - より小さい (Less Than)
  - 複数選択演算子 (Multiselect operator) - すべて (All of)



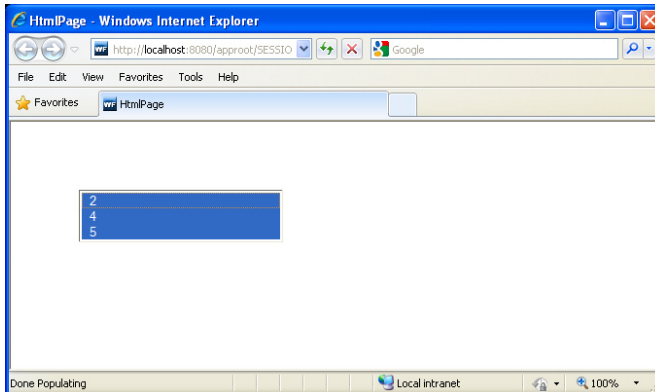
6. ページを実行します。

このページを最初に実行する場合、listbox1 のデフォルトの選択はありません。また、デフォルト設定では listbox2 は表示されません。5 より小さい値のいずれかを選択すると、手順 5 で設定した条件が満たされて、listbox2 が表示されます。[2] および [4] を選択した場合も、「複数選択の値すべてが 5 より小さい」という条件が満たされるため、listbox2 が表示されます。[2] と [5]、[4] と [5]、[4] と [5] という選択は、「複数選択の値すべてが 5 より小さい」という条件を満たさないため、listbox2 は非表示になります。

下図の例では、選択した値すべてが条件に一致し、その結果として listbox2 が表示されています。



下図の例では、選択した値に条件に一致しないものが含まれ、その結果として listbox2 が非表示になっています。



### 手順 条件のパラメータを決定するには

連鎖を設定する前に、コントロールに値を入力しておくことをお勧めします。あらかじめ値を入力しておく、必要な情報が取得され、[パラメータの解決] (Resolves parameter) として最適な値が決定されます。最初に連鎖を設定してから値を入力する場合、連鎖が確定済みのため、この情報を取得することはできません。最初に連鎖を設定する場合は、[パラメータの解決] (Resolves parameter) を手動で設定する必要があります。

1. HTML コンポーザで、パラメータ付きのレポートを挿入します。

パラメータの作成についての詳細は、「[Creating Parameter Values](#)」を参照してください。

2. [パラメータ] (Parameters) タブで、コントロールオブジェクトをクリックしてからドラッグし、連鎖を作成します。

[パラメータ] (Parameters) タブでは、連鎖は、コントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。

連鎖コントロールにより、連鎖で選択済みのコントロール値に基づいて、実行時にパラメータに値が入力されます。連鎖コントロールについての詳細は、18 ページの「[パラメータタブのコントロール連鎖](#)」を参照してください。

3. 連鎖内のリンクをクリックします。

[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが開き、バインドコントロール値、および連鎖内のリンクの条件設定が表示されます。

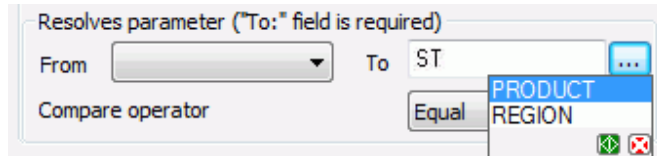
4. [パラメータの解決] (Resolves parameter) の [...] (参照) ボタンをクリックし、解決するパラメータ名を選択します。コントロールの入力に、フィルタが設定されたプロシジャを使用する場合は、値リストに、フィルタのパラメータが表示されます。コントロールの入力にデータソースを使用する場合は、値リストに、オブジェクトインスタクタに表示されるデータソースのフィールドがすべて表示されます。

[パラメータの解決] (Resolves parameter) テキストボックスの値は、次のいずれかにする必要があります。

- コントロールの入力にデータソースを使用する場合は、連鎖で次のコントロールの値を制限するフィールド名。
- コントロールの入力にプロシジャを使用する場合は、プロシジャのパラメータ名。

ほとんどの場合、この値は、デフォルト設定で入力されるため、変更する必要はありません。

**ヒント：**ポップアップアイコンを使用してフィールドを選択し、ポップアップダイアログボックスを閉じることもできます。緑のアイコンは「OK」、赤のアイコンは「キャンセル」を示します。値をダブルクリックすると、その値が選択され、ボタンを使用しなくてもダイアログボックスが閉じます。また、ダイアログボックスを閉じるには、Esc キーを押すこともできます。



5. [プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスを閉じます。  
フィルタが指定されていない場合、パラメータ値は連鎖内で解決されます。

## 手順

### パラメータの比較演算子を選択するには

連鎖論理の適用の例として、フォームで、開始と終了の日付範囲として、2つの日付リストを提供する場合があります。これらのパラメータに連鎖を設定し、パラメータ比較演算子として「より大きい」を適用すると、ユーザが FROM パラメータの日付を選択した際に、FROM 以降の日付のみを TO 日付コントロールに表示して、無効な日付範囲の選択を回避することができます。

1. HTML コンポーザで、パラメータ付きのレポートを挿入します。

パラメータの作成についての詳細は、「[Creating Parameter Values](#)」を参照してください。

2. [パラメータ] (Parameters) タブで、コントロールオブジェクトをクリックしてからドラッグし、連鎖を作成します。

[パラメータ] (Parameters) タブでは、連鎖は、コントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。

連鎖コントロールにより、連鎖で選択済みのコントロール値に基づいて、実行時にパラメータに値が入力されます。連鎖コントロールについての詳細は、18 ページの「[パラメータタブのコントロール連鎖](#)」を参照してください。

3. 連鎖内のリンクをクリックします。

[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが開き、バインドコントロール値、および連鎖内のリンクの条件設定が表示されます。

4. [パラメータの比較演算子] (Parameter's compare operator) ドロップダウンリストで連鎖論理オプションを選択します。これにより、比較演算子がコントロールに入力されるよう設定されます。

デフォルトのオプションは、[等しい] (Equal) です。

5. [プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスを閉じます。  
選択したパラメータに、比較演算子が適用されます。

### 手順

#### 連鎖値のキャッシュ処理を有効にするには

連鎖値のキャッシュ処理は、次の 2 つの方法で有効にすることができます。

- HTML ページのキャッシュオプションおよびすべてのオブジェクトを有効にします。
- 動的コントロールまたは条件のキャッシュ実行時データを有効にします。

連鎖の各リンクには、条件が設定されています。条件は、コントロールオブジェクトでバインドされた値とリンクしています。条件のオプションを変更すると、変更はコントロールにも適用されます (逆も同様)。

キャッシュオプションは、デフォルト設定でオフになっています。

1. HTML ページのオブジェクトすべてのキャッシュオプションを有効にするには、次の手順を実行します。

- HTML コンポーザの [デザイン] (Design) タブで、[ウィンドウ] (Window) メニューから [オプション] (Options) を選択します。

[Developer Studio オプション] (Developer Studio Options) ダイアログボックスが開きます。

- [HTML ページ] (HTML Page) タブを選択します。
- [デフォルトキャッシュオプション] (Default caching option) を選択します。
- [OK] をクリックし、[Developer Studio オプション] (Developer Studio Options) ダイアログボックスを閉じます。

2. 動的コントロールまたは条件のキャッシュオプションを有効にするには、次の手順を実行します。

連鎖の各リンクには、条件が設定されています。条件は、コントロールオブジェクトで連鎖された値とリンクしています。条件のオプションを変更すると、変更はコントロールにも適用されます (逆も同様)。



- a.** 動的コントロールの場合は、次の手順を実行します。
- パラメータ値を提供する動的入力コントロールを作成します。  
動的値の作成についての詳細は、「[Creating a Dynamic List of Values](#)」を参照してください。
  - [パラメータ](Parameters) タブで、動的コントロールオブジェクトを選択します。  
[プロパティと設定](Properties and settings) ダイアログボックスが開き、動的コントロールオプションが表示されます。
  - [実行時データのキャッシュ](Cache run time data) を選択し、選択した入力コントロールの実行時間データをキャッシュすることができます。  
**注意：**この設定は、[HTML ページ](HTML Page) タブの [デフォルトキャッシュオプション](Default caching option) の設定を上書きします。
  - [プロパティと設定](Properties and settings) ダイアログボックスを閉じます。
  - コントロールオブジェクトの中央を選択してクリックし、連鎖内の次のコントロールオブジェクトの中央にドラッグしてマウスボタンを離すと、連鎖のバインドが完成します。  
コントロールをバインドする際、動的コントロールプロパティと設定に設定された値が条件に継承されます。
- b.** 動的条件の場合は、次の手順を実行します。
- 連鎖上のリンクをクリックして、その条件の [プロパティと設定](Properties and settings) ダイアログボックスを開きます。
  - [実行時データのキャッシュ](Cache run time data) を選択し、選択した入力コントロールの実行時間データをキャッシュすることができます。このオプションは、動的コントロールでのみ利用可能です。  
この設定により、[HTML ページ](HTML Page) タブの [デフォルトキャッシュオプション](Default caching option) の設定は上書きされます。

HTML ページ実行中は、パフォーマンス向上のため、連鎖値データはキャッシュされません。

### コントロールの逐次入力

#### 手順/構文

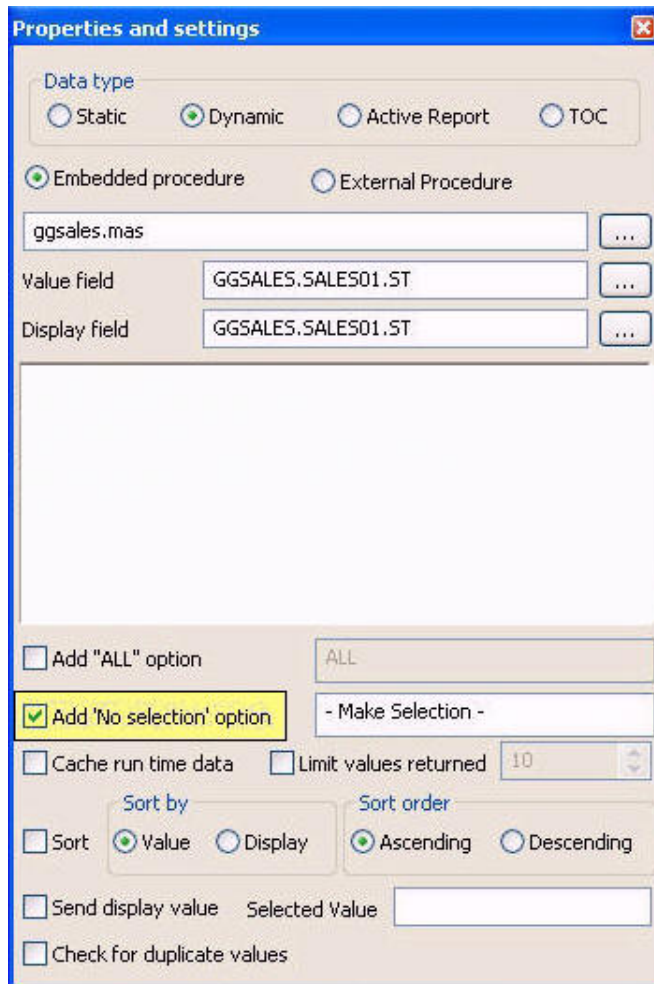
コントロールを逐次入力するには

複雑なページを作成する場合、最初にページをロードする際に、連鎖にすべてのコントロールを入力する代わりに、コントロールを1つずつ入力して、パフォーマンスを最適化することができます。['選択なし' オプションの追加] (Add 'No selection' option) を選択すると、コントロールの入力を、必要に応じて行うことができます。

## 手順

## コントロールを逐次入力するには

1. 下図のように、入力コントロールの[プロパティと設定](Properties and settings) ダイアログボックスで[選択なし] オプションの追加](Add 'No Selection' option) のチェックをオンにします。必要に応じて、連鎖内のその他の入力コントロールに対しても、この手順を繰り返します。



2. [実行] (Run) ボタンをクリックします。

ページが開いて、最初のコントロール (例、Region) に [選択してください] (Make Selection) ドロップダウンリストが表示されます。これに続くその他のコントロールには、値は表示されません。

REGION                      ST                      CITY

- Make Selection -                      -                      -

- Make Selection -

Midwest

Northeast

Southeast

West

- 最初のコントロールのドロップダウンリスト (例、Midwest) から、値を選択します。  
最初のコントロールで選択すると、次のコントロール (例、State) には、この選択から値が入力され、その次のコントロールには値は表示されません。
- 下図のように、次のコントロールのドロップダウンリスト (例、IL) で、値を選択します。

REGION                      ST                      CITY

Midwest                      - Make Selection -                      -

- Make Selection -

IL

MO

TX

その次のコントロール (例、City) に、この選択から値が入力されます。

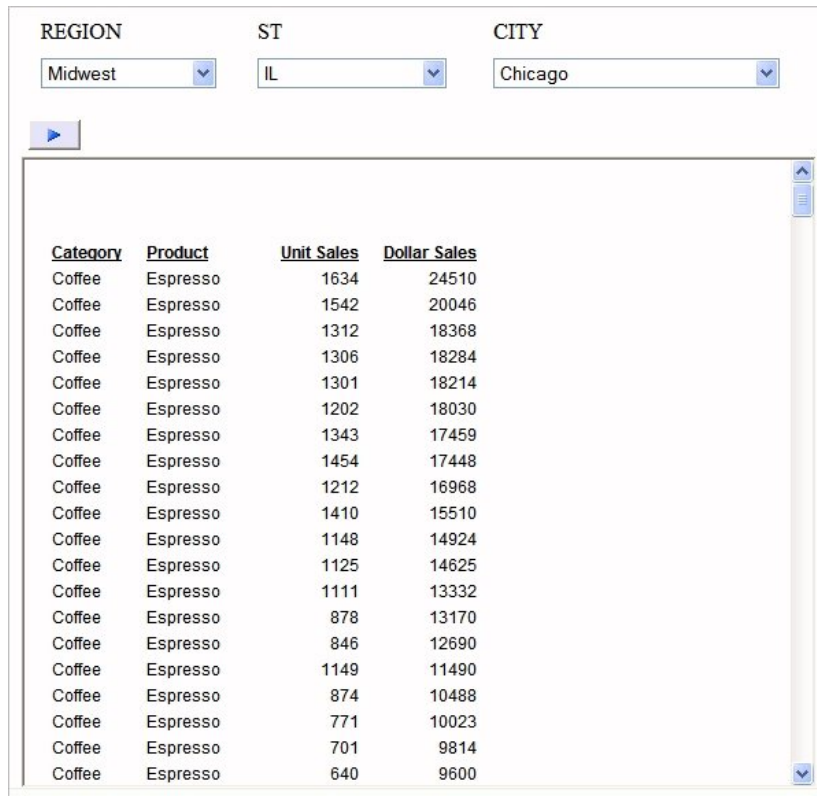
- 下図のように、次のコントロールのドロップダウンリスト (City) で、値を選択します。

REGION                      ST                      CITY

Midwest                      IL                      Chicago

- [実行] (Run) ボタンをクリックします。

下図のようなレポート出力が表示されます。



REGION	ST	CITY
Midwest	IL	Chicago

Category	Product	Unit Sales	Dollar Sales
Coffee	Espresso	1634	24510
Coffee	Espresso	1542	20046
Coffee	Espresso	1312	18368
Coffee	Espresso	1306	18284
Coffee	Espresso	1301	18214
Coffee	Espresso	1202	18030
Coffee	Espresso	1343	17459
Coffee	Espresso	1454	17448
Coffee	Espresso	1212	16968
Coffee	Espresso	1410	15510
Coffee	Espresso	1148	14924
Coffee	Espresso	1125	14625
Coffee	Espresso	1111	13332
Coffee	Espresso	878	13170
Coffee	Espresso	846	12690
Coffee	Espresso	1149	11490
Coffee	Espresso	874	10488
Coffee	Espresso	771	10023
Coffee	Espresso	701	9814
Coffee	Espresso	640	9600

## 連鎖の区切りと行区切りの使用

### 手順/構文

連鎖の区切りと行区切りを使用するには

[連鎖の区切り] (Chain Separator) および [行区切り] (Line Separator) オプションを使用すると、それぞれの設定のオンとオフを切り替えて、連鎖およびパラメータをグループ化したり、分離したりすることができます。これらの2つの区切りオプションを使用すると、次のような結果になります。

**連鎖の区切り** [各連鎖を別の行に配置] (Start each chain on a new line) をオンに設定した場合、この区切りを基点として新しい連鎖グループが新しい行に作成されます。[各連鎖を別の行に配置] (Start each chain on a new line) をオフに設定した場合、[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスでどこに区切りを配置しても、この区切りを基点として新しい連鎖が開始されます。複数のコントロールが 1 行に配置され、フォームの端で折り返されます。

**注意：**デフォルトの状態では、[各連鎖を別の行に配置] (Start each chain on a new line) はオンに設定されています。このオプションは、[フォームの設定] (Form settings) ダイアログボックスに表示されます。

**行区切り** この区切りを配置した位置に改行が挿入されます。

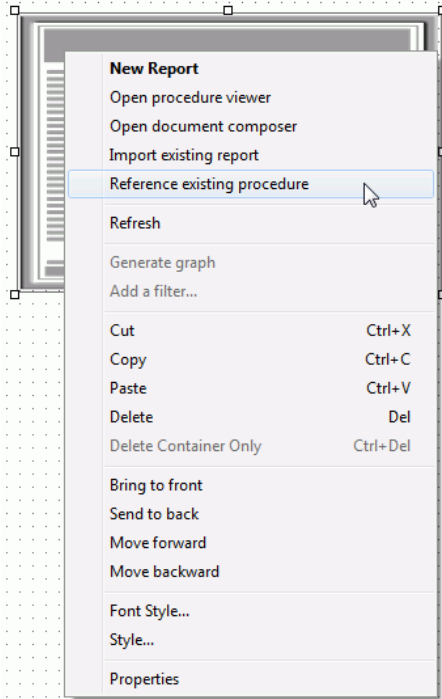
### 手順

#### 連鎖の区切りと行区切りを使用するには

連鎖の区切りと行区切りを使用するには、次の手順を実行します。

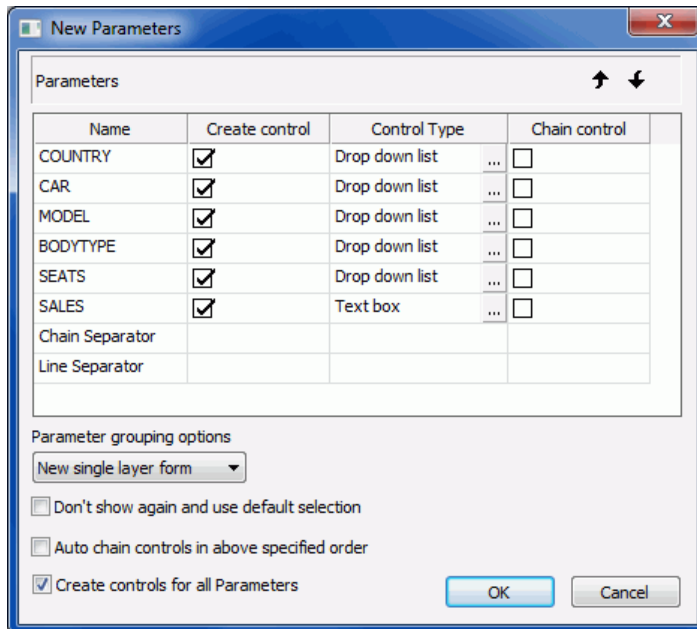
1. 新しいプロシジャを作成します。ここでは、CAR マスターファイルを使用して、COUNTRY、CAR、MODEL、BODYTYPE、SEATS、SALES フィールドにパラメータを設定したプロシジャを作成します。
2. このプロシジャに「separator\_example.fex」という名前を付けて保存します。
3. 新しい HTML ファイルを作成します。
4. 新しいレポートを挿入します。

5. 下図のように、レポートを右クリックし、[既存プロシジャの参照] (Reference existing procedure) を選択します。



6. 上記で作成したプロシジャ (separator\_example.fex) を選択し、[開く] (Open) をクリックします。

下図のように、[新規パラメータ] (New Parameter) ダイアログボックスが開きます。



7. [上記の順序でコントロールに自動連鎖を設定する] (Auto chain controls in above specified order) のチェックをオンにします。
8. [行区切り] (Line Separator) を SALES の上へ移動します。  
行区切りのコピーが上へ移動し、元の行区切りは最初の位置に残ります。この方法で複数の行区切りを追加することができます。
9. [連鎖の区切り] (Chain Separator) を MODEL の上へ移動します。  
連鎖の区切りのコピーが上へ移動し、元の連鎖の区切りは最初の位置に残ります。この方法で複数の連鎖の区切りを追加することができます。



[新規パラメータ] (New Parameters) ダイアログボックスは、下図のように表示されます。

Name	Create control	Control Type	Chain control
COUNTRY	<input checked="" type="checkbox"/>	Drop down list ...	<input checked="" type="checkbox"/>
CAR	<input checked="" type="checkbox"/>	Drop down list ...	<input checked="" type="checkbox"/>
Chain Separator			
MODEL	<input checked="" type="checkbox"/>	Drop down list ...	<input checked="" type="checkbox"/>
BODYTYPE	<input checked="" type="checkbox"/>	Drop down list ...	<input checked="" type="checkbox"/>
SEATS	<input checked="" type="checkbox"/>	Drop down list ...	<input checked="" type="checkbox"/>
Line Separator			
SALES	<input checked="" type="checkbox"/>	Text box ...	<input checked="" type="checkbox"/>
Line Separator			
Chain Separator			

Parameter grouping options

New single layer form

Don't show again and use default selection

Auto chain controls in above specified order

Create controls for all Parameters

OK Cancel

**10.** [OK] をクリックします。

レポートが HTML ページに追加されます。COUNTRY および CAR は 1 行目に表示され、1 つの連鎖を形成しています。MODEL、BODYTYPE、SEATS は 2 行目に表示され、SALES のみが 3 行目に表示されています。MODEL、BODYTYPE、SEATS、SALES は、2 つ目の連鎖を形成しています。

パラメータは、下図のように表示されます。

COUNTRY	CAR	
ENGLAND	ALFA ROMEO	
MODEL	BODYTYPE	SEATS
2000 4 DOOR	CONVERTIBLE	2
SALES		
<input type="text"/>		
<input type="button" value="▶"/>	<input type="button" value="↺"/>	

## 2 HTML コンポーザによる **Active** テクノロジダッシュボードおよび **RIA** の作成

HTML コンポーザを使用すると、Active テクノロジダッシュボードおよびリッチインターネットをグラフィカルに作成することができます。HTML コンポーザは、JavaScript およびカスケードスタイルシート (CSS) と完全に統合されています。

### トピックス

- HTML コンポーザによる Active テクノロジダッシュボードの作成
- HTML コンポーザによる RIA の作成

## HTML コンポーザによる Active テクノロジダッシュボードの作成

### トピックス

Active テクノロジレポートへのオブジェクトの結合

HTML コンポーザによる Active テクノロジコントロールの構成

Active テクノロジレポートのリフレッシュ

Active テクノロジダッシュボードのエクスポート

Active テクノロジダッシュボードのスケジュールと配信

active report は、オフライン分析のために設計されています。

HTML コンポーザの active report 機能が拡張され、HTML フォームとして active dashboard を作成する機能が追加されました。この HTML フォームには、active report のメニューオプションに類似した 1 つまたは複数の active report プロシジャおよびコントロールを追加します。これにより、HTML コンポーザで作成したページで、複数の active report をグローバルに編集することができます。

active report は、オフライン分析用に設計された自己完結型のレポートで、HTML 出力ファイル内のデータすべてと JavaScript が格納されています。active report の利点は、このレポートをオフラインで実行できることです。

active dashboard は、複数の active report を共通のソートフィールドで統合し、さまざまなシナリオを作成することができます。active dashboard では、レポートをオフラインで実行することができるに加えて、複数のグラフと表を組み合わせたストーリーボードを作成し、ビジネスの問題点を全体的に把握することができます。active dashboard は、スタンドアロンのダッシュボードとしてユーザに送信したり、社内のダッシュボードに統合したりすることができます。通常のダッシュボードでは、複数のシナリオをページごとに区分し、ページ上部のタブを選択してそれぞれのページを表示します。

HTML コンポーザで active dashboard を作成するには、次の手順を実行します。

- active report を HTML コンポーザに追加する。
- レイアウトで、active report に別の active report や active chart を結合 (同期) する。
- 実行時に使用する active report メニューオプションの原型となる Active コントロールを構成する。

- HTML レイアウトを DB2 Web Query プロシジャ (.fex) として保存し、active dashboard のスケジュールおよび配信に使用する。HTML コンポーザで利用可能な [プロシジャとしてエクスポート] (Export as Procedure) オプションにより、HTML ページが変換され、コードが DB2 Web Query プロシジャに埋め込まれて、オフラインでの実行が可能になります。この時点で、このレイアウトは Web ページでも HTML ファイルでもなく、HTML コードが埋め込まれた DB2 Web Query プロシジャになります。

### Active テクノロジレポートへのオブジェクトの結合

#### 手順/構文

レポートオブジェクトおよびグラフオブジェクトを Active テクノロジレポートに同期するには

同期した Active テクノロジレポートグループを表示するには

同期レポートのプロパティを選択するには

Active テクノロジレポートオブジェクトを削除するには

レポートまたはグラフオブジェクトを active report オブジェクトや active chart オブジェクトに結合して、active report の複数のビューを作成することができます。結合 (同期) とは、HTML コンポーザ内の active report オブジェクト、active chart オブジェクトと他のレポートまたはグラフオブジェクトとの関係を構築することです。

active report オブジェクトおよび active chart オブジェクトを同期して、同期後のレポートグループを HTML コンポーザで表示することができます。同期オプションは、HTML コンポーザの [配置] (Positioning) ツールバーにあります。

オブジェクトの同期を複数の active report に対して同時に行うことはできません。オブジェクトを 2 番目の active report に同期すると、最初の同期が解除されます。

#### 手順

#### レポートオブジェクトおよびグラフオブジェクトを Active テクノロジレポートに同期するには

1. HTML コンポーザでレイアウトに active report を追加することができます。

- [挿入] (Insert) メニューから [新規レポート] (New Report) を選択します。

レポートオブジェクトを右クリックし、コンテキストメニューから [既存プロシジャの参照] (Reference existing procedure) を選択して active report を追加します。

2. 次の手順に従って、active report オブジェクト、active chart オブジェクトをレイアウトに追加します。
  - [挿入] (Insert) メニューから [新規レポート] (New Report) または [新規グラフ] (New Graph) を選択します。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。
  - 十字カーソルをドラッグして、active report オブジェクトまたは active chart オブジェクトを作成し、必要なサイズに調整します。

## 3. 同期するオブジェクトを選択します。

- 同期するオブジェクトとして、active report オブジェクトまたは active chart オブジェクトを選択します。
- Ctrl キーを押しながら、結合先のレポートとなる active report を選択します。配置ツールバーの同期ボタンが有効になります。

下図の例では、結合オブジェクトは active report であり、この active report に、グラフオブジェクトを同期します。

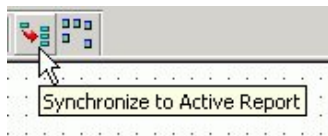
19 of 19 records (100%), Page 1 of 1

**Production Units Analysis**

Region	State	Category	Product	Budget Units	Unit Sales
Midwest	IL	Coffee	Espresso	32416	32237
	MO	Coffee	Espresso	32787	32596
	TX	Coffee	Espresso	36666	36321
Northeast	CT	Coffee	Capuccino	11098	12386
			Espresso	23676	22482

境界線の白い四角形は、結合オブジェクト (active report) であることを示しています。境界線の黒い四角形は、同期オブジェクト (active report オブジェクトまたは active chart オブジェクト) であることを示しています。

4. 配置ツールバーの [active report と同期] (Synchronize to active report) ボタンをクリックします。



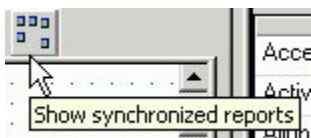
指定した active report オブジェクトまたは active chart オブジェクトが同期され、active report のデータとともにリフレッシュされます。

これらの active report オブジェクトには、個別に関連付けられたプロシジャはありません。これらの項目を右クリックしても、そのプロシジャを編集するためのオプションは表示されません。

### 手順

#### 同期した Active テクノジレポートグループを表示するには

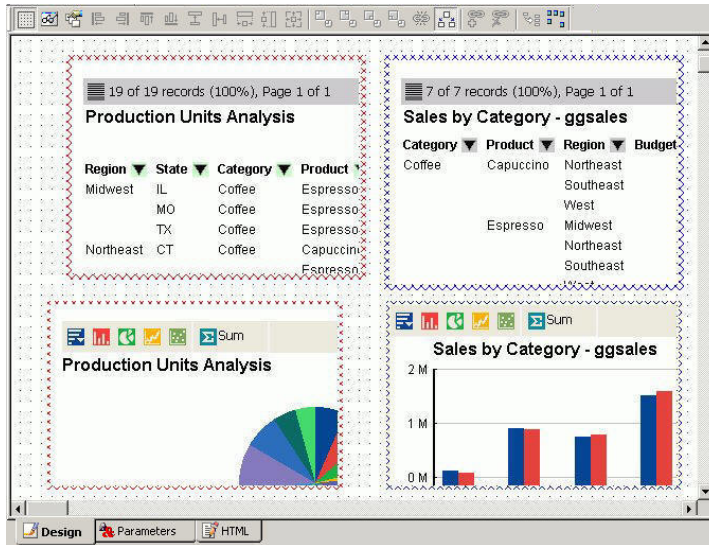
配置ツールバーから [同期レポートの表示] (Show synchronized reports) を選択します。



同期グループがレイアウトに表示されます。



下図は、2つのレポートグループが同期された例を示しています。[Production Units Analysis] グラフが [Production Units Analysis] active report に同期され、[Sales by Category] グラフが [Sales by Category] active report に同期されています。



## 手順

### 同期レポートのプロパティを選択するには

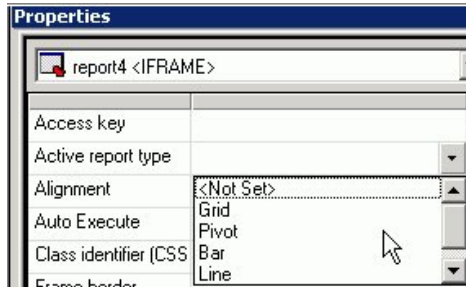
[プロパティ] (Properties) ウィンドウの [プロパティ] (Properties) タブを使用して、active report オブジェクトのプロパティを変更することができます。

1. レイアウト内の同期された active report オブジェクトを選択し、[プロパティ] (Properties) タブをクリックします。

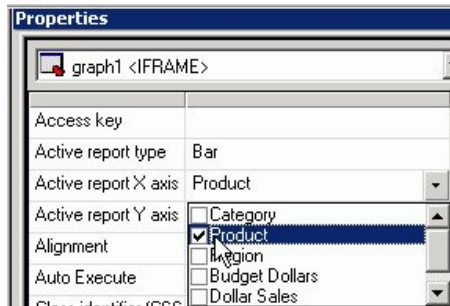
active report オブジェクトのプロパティが表示されます。

2. [active report のタイプ] (active report Type) ドロップダウンリストを選択し、そのオブジェクトの active report タイプを変更します。

選択可能なオプションには、[設定しない] (<Not Set>)、[リスト] (Grid)、[ピボット] (Pivot)、[棒] (Bar)、[折れ線] (Line)、[円] (Pie) があります。



3. active report タイプとして [棒] (Bar)、[折れ線] (Line)、[円] (Pie) のいずれかを選択した場合は、オプションとして同期レポートに適用する X 軸および Y 軸を選択することができます。
  - [active report X 軸フィールド] (active report X Axis) ドロップダウンリストを選択します。
  - [active report Y 軸フィールド] (active report Y Axis) ドロップダウンリストを選択します。



グラフオブジェクトの X および Y 値を変更した場合、ここで選択した値は、HTML コンポーザのデザイン表示には反映されません。これらの値は実行時に適用されます。

### 手順

#### Active テクノジレポートオブジェクトを削除するには

active report オブジェクトを挿入できるのは、そのオブジェクトが active report と同期された場合のみです。レポートまたはグラフオブジェクトと active report 間の同期を解除するには、そのオブジェクトを削除します。

1. レイアウト内の同期されたレポートまたはグラフオブジェクトを選択します。

2. [編集] (Edit) メニューから [削除] (Delete) を選択します。  
選択した active report オブジェクトが削除されます。

### HTML コンポーザによる Active テクノジコントロールの構成

#### 手順/構文

Active テクノジフォームコントロールをレイアウトに追加するには

Active テクノジフォームコントロールを構成するには

#### 参照

プロパティと設定ダイアログボックス (Active テクノジレポート)

Active コントロールを追加するには、レイアウトに新しいコントロールを挿入し、[パラメータ] (Parameters) タブで Active コントロールとして構成する必要があります。コントロールタイプとして active report を選択すると、HTML レイアウトコントロールと active report 間の関係が構築され、これにより結合済み active report にリンクアクションが直接反映されます。

Active コントロールは、HTML コンポーザに active report が埋め込まれている場合または参照されている場合にのみ適用されます。active report コントロールは、レイアウト内のどのパラメータとも関連付けることはできません。このタイプのコントロールは、レイアウト内の active report にのみ関連付けることができます。

#### 注意

- HTML コンポーザで作成された active dashboard の場合、表示を制限するためのパスワード (ARPASSWORD) が設定された active report はサポートされません。
- HTML コンポーザで active dashboard を作成する場合、アクティブキャッシュオプションを有効にした active report と日付フィールド (フォーマットが MDY、MDYY などの日付) の Active コントロールを組み合わせると、エラーが発生します。Active コントロールの日付フィールドを適切に動作させるには、active report の [アクティブキャッシュ] (Active Cache) オプションの選択を解除する必要があります。

- HTML コンポーザの AHTML レポートにレポートタイプのコントロールが表示され、実行時に [ピボット] (Pivot) レポートタイプを選択した場合、レポートのサイズが不適切に縮小されます。ユーザが [円グラフ] (Pie)、[折れ線グラフ] (Line)、またはデフォルトレポートタイプである [罫線] (Grid) を選択した場合、フレームは、ユーザが設定する元のサイズには変更されません。スクロールバーは追加されますが、出力を完全に表示することはできません。

### 手順

#### Active テクノロジフォームコントロールをレイアウトに追加するには

すべての HTML レイアウトコントロールを Active コントロールとして構成することが可能ですが、最適なコントロールは、チェックボックス、ドロップダウンリスト、リストボックス、ラジオボタンです。

active report メニューオプションと同一の HTML レイアウトコントロールを追加します。

1. [挿入] (Insert) メニューの [コンポーネント] (Components) または [コントロール] (Controls) サブメニューから、コントロールタイプ (例、ドロップダウンリスト、リストボックス) を選択します。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。

2. 十字カーソルをドラッグしてコントロールオブジェクトを作成し、必要なサイズに調整します。

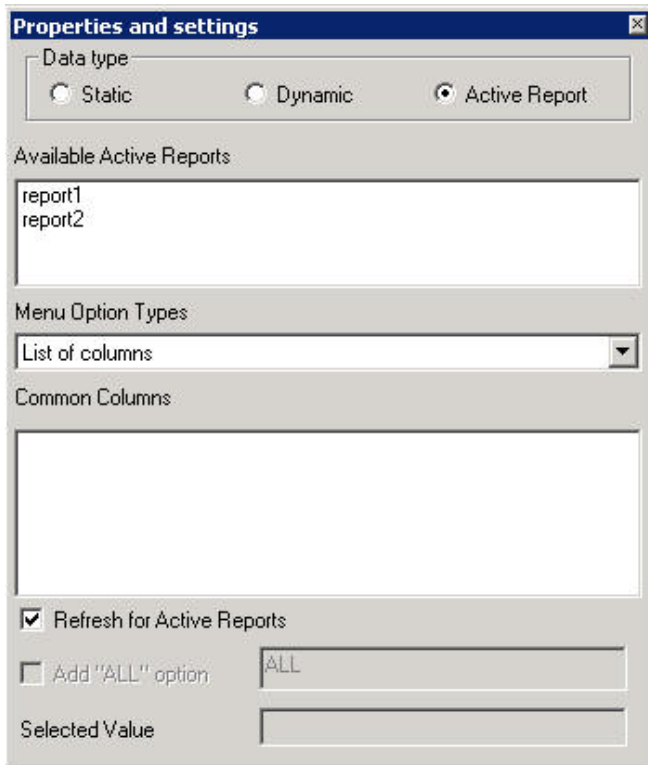
指定した HTML レイアウトコントロールが Active コントロールとして追加されます。これで、[パラメータ] (Parameter) タブで、このコントロールを構成することができます。

### 参照

#### プロパティと設定ダイアログボックス (Active テクノロジレポート)

[パラメータ] (Parameters) タブで、動的レポート値を作成または編集する際、[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが表示されます。

下図は、[データタイプ] (Data type) として [active report] を選択した場合の [プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスを示しています。



[データタイプ] (Data type) として [active report] を選択すると、[パラメータ] (Parameters) タブには、次の項目とオプションが表示されます。

### データタイプ (Data type)

値の取得先として、静的リスト、動的リスト、active report のいずれかを指定します。

active report コントロールを選択するには、HTML コンポーザコントロールと active report を結合する必要があります。

### 利用可能な active report (Available active reports)

[利用可能な active report] (Available active report) リストを使用して、Active コントロールをレイアウト内の active report に結合します。[active report のリフレッシュ] (Refresh for active reports) が実行されると、[利用可能な active report] (Available active reports) リストで選択した active report が、結合済み Active コントロールの現在のステータスに基づいて更新されます。

[利用可能な active report] (Available active reports) リストには、HTML コンポーザに現在埋め込まれているすべての active report が表示されます。デフォルト設定では、active report はどれも選択されていません。

### メニューオプションタイプ (Menu Option Types)

メニューオプションタイプは、[active report のリフレッシュ] (Refresh active reports) 設定が実行されたときの active report の更新方法を指定します。メニューオプションタイプは、Active コントロールを構成して、フィールドのソート、コンテンツのフィルタ、active report の外観の変更を行います。複数の Active コントロールにそれぞれ異なるメニューオプションタイプ設定を組み合わせ、active dashboard を編集することができます。

[メニューオプションタイプ] (Menu Option Types) に表示されたオプションを使用して、Active コントロールに継承する active report メニューオプションを指定します。現在の Active コントロールの動作を設定するには、[メニューオプションタイプ] (Menu Option Types) の項目を 1 つだけ選択します。

いずれのオプションも選択しない場合、active コントロールは active dashboard に影響しません。

### フィールドリスト (List of columns)

実行時に、結合済み active report に共通するフィールドをすべて Active コントロールに表示します。[active report のリフレッシュ] (Refresh active reports) の設定が実行されると、選択したフィールドに基づいてデータがソートされます。

レポートのフィールドに AS 名を使用する場合、すべての共通フィールド名を、全レポートで同一にする必要があります。

### フィールド値 (Column value)

実行時に、Active コントロールが結合済み active report に共通する特定フィールドのユニーク値をすべて表示します。[active report のリフレッシュ] (Refresh for active reports) が実行されると、選択されたフィールド値に基づいて、Active コントロールに、結合済み active report へのフィルタが設定されます。

[フィールド値] (Column value) を選択すると、["すべて" オプションを追加する] (Add "ALL" Option) が有効になります。これにより、データソースの値すべてを選択するオプションが、コントロールに追加されます。

### フィルタリスト (List of filters)

実行時に、Active コントロールは、複数のフィルタアクションを表示します。このタイプのコントロールは、結合済み active report に単体で影響することはないため、Active フォームコントロールを [フィールド値] (Column value) に設定して使用します。[active report のリフレッシュ] (Refresh for active reports) が実行されると、[フィールド値] (Column Values) コントロールで選択した値に基づいて、Active コントロールに、結合済み active report へのフィルタ設定方法が表示されます。

利用可能なフィルタリストには、[等しい] (Equals)、[等しくない] (Not equal)、[より大きい] (Greater than)、[以上] (Greater than or equal to)、[より小さい] (Less than)、[以下] (Less than or equal to)、[間] (Between)、[文字列を含む] (Contains)、[文字列を含む (大文字と小文字の一致)] (Contains (match case))、[文字列を含まない] (Omits)、[文字列を含まない (大文字と小文字の一致)] (Omits (match case)) があります。

### ソート順 (Sort order)

実行時に、Active コントロールは、[昇順にソート] (Sort Ascending) または [降順にソート] (Sort Descending) の 2 つのソートアクションを表示します。[active report のリフレッシュ] (Refresh for active reports) 設定が実行されると、選択されたソートアクションに基づいて Active コントロールが結合済み active report をソートします。

デフォルト設定では、結合済み active report の最初の共通フィールドがソートされません。

### レポートタイプ (Report type)

実行時に、Active コントロールが active report の外観タイプをリスト表示します。指定可能なタイプには、[リスト] (Grid)、[円グラフ] (Pie Chart)、[折れ線グラフ] (Line Chart)、[棒グラフ] (Bar Chart)、[ピボットテーブル] (Pivot Table) があります。[active report のリフレッシュ] (Refresh for active reports) 設定が実行されると、Active コントロールは、結合済み active report を選択された外観タイプに変更します。

### 共通カラム (Common Columns)

[共通カラム] (Common Columns) リストは、メニューオプションタイプで [カラム値] (Column value) を選択した場合にのみ表示されます。[共通カラム] (Common Columns) リストには、結合済み active report に存在する共通フィールドがすべて表示されません。Active コントロールに結合するフィールドを 1 つ選択します。実行時に、active report コントロールは、結合済み active report で選択された共通カラムのすべてのユニーク値を表示します。

[カラム値] (Column value) コントロールが [カラムリスト] (List of columns) のメニューオプションタイプに連鎖している場合は、実行時に共通フィールドの選択を上書きすることができます。

### active report のリフレッシュ (Refresh for active reports)

この設定を有効にすると、実行時に新しい値を選択したときに、Active コントロールが結合済み active report の現在のビューを自動更新します。

[パラメータ] (Parameters) ウィンドウで [利用可能な active report] (Available active report) を選択した場合、デフォルト設定で [active report のリフレッシュ] が有効になります。

active report のリフレッシュオプションについての詳細は、69 ページの「[Active テクノジレポートのリフレッシュ](#)」を参照してください。

### 表示値 (Selected Value)

プロシジャの実行時にデフォルト値として表示する値を入力します。詳細は、「[Use Selected Values as the Default Value](#)」を参照してください。

[表示値] (Selected Value) オプションは、メニューオプションタイプで [カラム値] (Column Value) を選択した場合にのみ Active で使用することができます。

### "すべて" オプションを追加する (Add "ALL" Option)

データソースのすべての値を選択するためのオプションをコントロールに追加します。右側に表示されたテキストフィールドの「すべて」という語句を、他のテキストに変更することもできます。詳細は、「[Parameter List Options](#)」を参照してください。

[メニューオプションタイプ] (Menu Options Types) で [フィールド値] (Column value) を選択すると、["すべて" オプションを追加する] (Add "ALL" Option) が有効になります。

## 手順

### Active テクノジフォームコントロールを構成するには

Active コントロールをレイアウトに追加後は、[パラメータ] (Parameters) タブで [プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスを使用して、Active コントロールを構成することができます。

[フィールドリスト] (List of columns) からは、[フィールド値] (Column value) への連鎖のみを設定できます。



1. レイアウト内の同期された Active コントロールを選択し、[パラメータ] (Parameters) タブをクリックする。

[プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスが開きます。

2. [データタイプ] (Data type) として [active report] を選択します。

active report オプションが表示されます。

3. レイアウトで、利用可能な Active に active report コントロールを結合します。

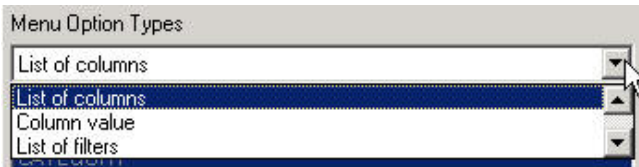
- [利用可能な active report] (Available active reports) リストから 1 つまたは複数の active report を選択します。
- active report を選択すると、デフォルト設定で [active report のリフレッシュ] (Refresh for active reports) が有効になります。

The screenshot shows the 'Properties and settings' dialog box for an Active Report control. The 'Data type' section has three radio buttons: 'Static', 'Dynamic', and 'Active Report', with 'Active Report' selected. Below this is the 'Available Active Reports' list, which contains 'report1' and 'report2'. The 'Menu Option Types' dropdown is set to 'List of columns'. The 'Common Columns' list contains 'CATEGORY', 'DIRECTOR', 'RATING', and 'WHOLESALEPR'. At the bottom, there are three checkboxes: 'Refresh for Active Reports' (checked), 'Add "ALL" option' (unchecked), and 'Selected Value' (unchecked). The 'Add "ALL" option' checkbox has a text input field containing 'ALL'.

[利用可能な active report] (Available active reports) リストで選択した active report が、結合済み active report コントロールの現在のステータスに基づいて更新されます。  
[active report のリフレッシュ] (Refresh for active reports) を有効にすると、実行時にユーザが新しい値を選択したときに、結合済み active report の現在のビューが更新されます。

active report のリフレッシュオプションについての詳細は、69 ページの「[Active テクノジレポートのリフレッシュ](#)」を参照してください。

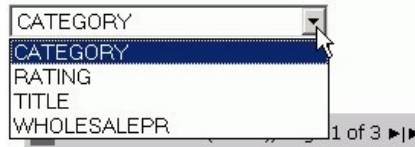
4. Active コントロールのメニューオプションタイプを選択し、結合済み active report およびその active report に同期されたレポートオブジェクトおよびグラフオブジェクトのソート、フィルタ、リスト表示、フィールドの選択、外観スタイルの変更を行います。



いずれのオプションも選択しない場合、active コントロールは active dashboard に影響しません。

- a. メニューオプションタイプから [カラムリスト] (List of columns) を選択して、結合済み active report に存在する共通フィールドをすべて表示します。実行時に、結合済み active report の出力が選択したフィールドに基づいてソートされます。

たとえば、次の Active コントロールには、結合済み active report に存在するすべてのフィールドが表示されています。



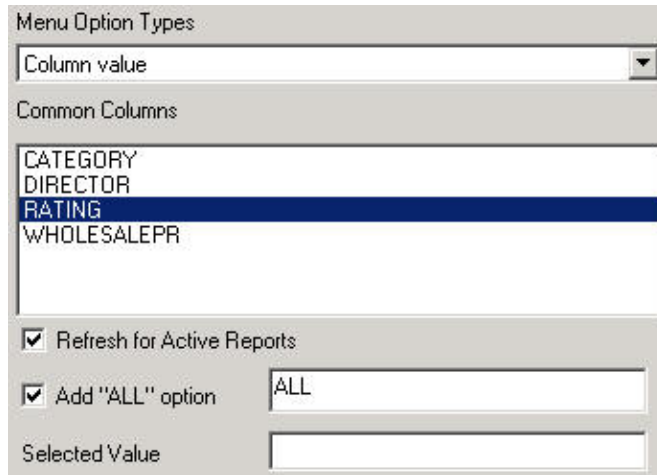
- b. メニューオプションタイプから [カラム値] (Column Value) を選択し、実行時に結合済み active report に共通する特定フィールドのユニーク値をすべて表示します。

**注意：**[フィールドリスト] (List of columns) からは、[フィールド値] (Column value) への連鎖のみを設定できます。[フィールド値] (Column value) から別の [フィールド値] (Column value) に連鎖を設定することはできません。

## 2. HTML コンポーザによる Active テクノロジダッシュボードおよび RIA の作成

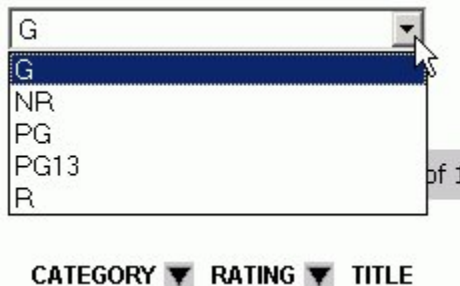
[フィールド値] を選択すると、Active コントロールパネルに、[利用可能な active report] (Available Columns) リストで選択した active report で共通するフィールドが動的に表示されます。

[共通カラム] (Common Columns) リストからフィールドを 1 つ選択します。



また、[表示値] (Selected Value) テキストボックスを使用して、プロシジャの実行時にデフォルト値として表示する値を入力することもできます。["すべて" オプションを追加する] (Add "ALL" option) のチェックをオンにすると、実行時にすべてのデータソース値を選択するオプションがコントロールに追加されます。

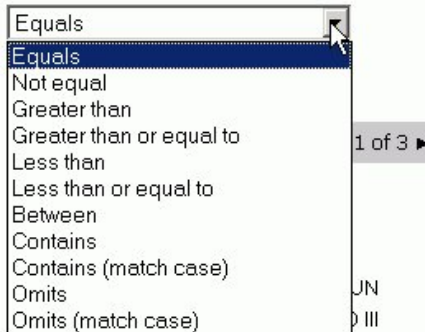
たとえば、下図は、結合済み Active の共通フィールドとして「RATING」を選択した状態の Active コントロールを示しています。



- c. メニューオプションタイプから [フィルタリスト] (List of filters) を選択し、実行時に複数のフィルタアクションを表示します。

フィルタリストは、[フィールド値] (Column value) とともに使用します。両方のコントロールは、同一の active report に結合する必要があります。Active コントロールは、[フィールド値] (Column value) コントロールで選択した値に基づいて、結合済み active report にフィルタを設定する方法を指定します。

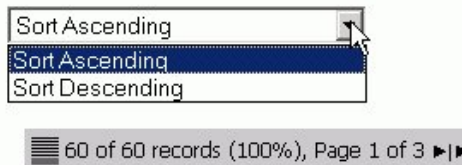
たとえば、次の Active コントロールには、結合済み active report のすべてのフィルタが表示されています。



- d. メニューオプションタイプから [ソート順] (Sort order) を選択し、実行時にソートオプション (昇順または降順) を表示します。Active コントロールにより、選択したソートアクションに基づいて結合済み active report がソートされます。

デフォルト設定では、結合済み active report の最初の共通フィールドがソートされます。

たとえば、次の Active コントロールには、結合済み active report のすべてのソート順オプションが表示されています。



- e. メニューオプションタイプから [レポートタイプ] (Report types) を選択し、実行時に異なるタイプの active report 外観タイプを表示します。Active コントロールは、結合済み active report を、選択された外観タイプに変更します。

たとえば、次の Active コントロールには、結合済み active report のすべてのレポートタイプオプションが表示されています。



### Active テクノロジレポートのリフレッシュ

#### 手順/構文

Active テクノロジコントロールパネルで Active テクノロジレポートを更新するには、プッシュボタンまたはハイパーリンクを使用して Active テクノロジレポートを更新するには

[active report のリフレッシュ] (Refresh for active reports) 設定を有効にすると、実行時に Active コントロールで新しい値を選択したときに、結合済み active report の現在のビューが自動的に更新されます。結合済み active report は、[active report のリフレッシュ] (Refresh for active reports) が設定された active report コントロールで新しい値を選択した場合に更新されるだけでなく、active dashboard のすべての Active コントロールの現在のステータスに基づいて更新されます。このアクションは、実行時に、[active report のリフレッシュ] (Refresh for active reports) が設定された Active コントロールで新しい値を選択したときに実行されます。

- この設定を有効 (チェックをオン) にすると、ユーザが新しい値を選択した場合に限り、Active コントロールで結合済み active report が更新されます。
- この設定を無効 (チェックをオフ) にすると、Active コントロールで新しい値を選択した場合でも、結合済み active report は更新されません。

Active コントロールの値が変更されたときに active report が更新されるようにするには、active report の [プロパティと設定] (Properties and settings) ダイアログボックスで、[active report のリフレッシュ] (Refresh active reports) のチェックをオンにしておく必要があります。

デフォルト設定で、[active report のリフレッシュ] (Refresh active reports) のチェックはオンになっています。

複数の Active コントロールが存在し、ユーザが出力を更新する前にそれぞれのコントロールを設定する必要がある場合は、[active report のリフレッシュ] (refresh active reports) オプションを無効にします。複数のコントロールを使用する場合は、[active report のリフレッシュ] (Refresh active reports) オプションをプッシュボタンまたはハイパーリンクに関連付けておくと、すべてのコントロールが選択された段階で出力を更新することができます。

### 手順 **Active テクノロジコントロールパネルで Active テクノロジレポートを更新するには**

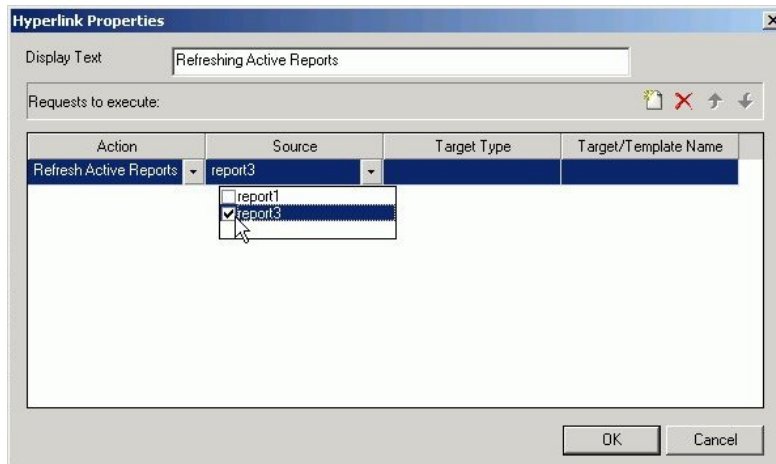
1. [パラメータ] (Parameters) タブで、コントロール値として [active report] を選択します。  
active report オプションが表示されます。
2. [active report のリフレッシュ] (Refresh active reports) のチェックをオンにします。  
[active report] をはじめて選択した場合は、デフォルト設定で [active report のリフレッシュ] (Refresh active reports) のチェックはオンになっています。

### 手順 **プッシュボタンまたはハイパーリンクを使用して Active テクノロジレポートを更新するには**

1. レイアウトにプッシュボタンまたはハイパーリンクを挿入します。
  - [挿入] (Insert) メニューから、[コントロール] (Controls)、[プッシュボタン] (Push Button) を選択します。
  - [挿入] (Insert) メニューから、[コンポーネント] (Components)、[ハイパーリンク] (Hyperlink) を選択します。マウスポインタが十字カーソルに変わります。
2. 十字カーソルをドラッグしてプッシュボタンまたはハイパーリンクオブジェクトを追加し、必要なサイズに調整します。
  - プッシュボタンを挿入する場合は、プッシュボタンオブジェクトを右クリックし、コンテキストメニューから [ハイパーリンクの作成] (Create hyperlink) を選択します。  
ハイパーリンクのプロパティ] (Hyperlink Properties) ダイアログボックスが開きます。

- ハイパーリンクを挿入する場合は、[ハイパーリンクのプロパティ] (Hyperlink Properties) ダイアログボックスが表示されます。
- 3. 必要に応じて、[表示するテキスト] (Display Text) テキストボックスでプッシュボタンまたはハイパーリンクの名前を変更することができます。
- 4. [ハイパーリンクのプロパティ] (Hyperlink Properties) ダイアログボックスで [新規作成] (New) アイコンを選択し、実行するリクエストを追加します。
- 5. [アクション] (Action) ドロップダウンリストから [active report のリフレッシュ] (Refresh active reports) を選択します。
- 6. [ソース] (Source) ドロップダウンリストを選択し、更新する active report を選択します。

[ソース] (Source) ドロップダウンリストには、レイアウトに埋め込まれた active report または参照された active report のみが表示されます。



- 7. [OK] をクリックして [ハイパーリンクのプロパティ] (Hyperlink Properties) ダイアログボックスを閉じます。

### Active テクノロジダッシュボードのエクスポート

#### 手順/構文

プロシジャとしてエクスポートするには

#### 参照

プロシジャとしてエクスポートする場合の変換

プロシジャとして保存するオプションの制限事項

active report の利点は、このレポートをオフラインで実行できることです。HTML フォームを Web Query プロシジャ (.fex) としてエクスポートすると、active dashboard をスケジュール配信することができます。この active dashboard も、オフラインで実行することができます。

[プロシジャとしてエクスポート] (Export as procedure) オプションは、HTML ページを変換して、コードを Web Query プロシジャに埋め込みます。この時点で、このレイアウトは Web ページでも HTML ファイルでもなく、HTML コードが埋め込まれた Web Query プロシジャになります。プロシジャ (.fex) は、[レポート] (Reports) グループフォルダ (Managed Reporting 環境) のサブフォルダに追加されます。

HTML レイアウトをプロシジャとして保存すると、HTML レイアウトに戻すことはできません。

[プロシジャとしてエクスポート] (Export as procedure) オプションは、active dashboard を保存する場合にのみ使用することをお勧めします。これは、レイアウトコントロールおよびレポートフォーマットの多くがサポートされないためです。

#### 手順

#### プロシジャとしてエクスポートするには

HTML フォームをプロシジャとしてエクスポートすると、そのプロシジャを元の状態に変換して HTML コンポーザに戻すことはできません。

1. HTML コンポーザで active dashboard を作成した後、[ファイル] (File) メニューから [プロシジャとしてエクスポート] (Export as procedure) を選択します。  
[新規プロシジャファイル] (New Procedure File) ダイアログボックスが開きます。
2. ファイル名を入力し、[作成] (Create) をクリックします。



レイアウトに Active コントロール以外のパラメータコントロールが存在する場合、[プロシジャとしてエクスポート] (Export as procedure) オプションを使用することはできません。

### 参照

### プロシジャとしてエクスポートする場合の変換

[プロシジャとしてエクスポート] (Export as procedure) オプションは、HTML ページを変換して、コードを Web Query プロシジャに埋め込みます。この時点で、このレイアウトは Web ページでも HTML ファイルでもなく、HTML コードが埋め込まれた Web Query プロシジャになります。この変換には、HTML ページ上の各オブジェクトの変換が必要になります。

HTML レイアウトからプロシジャを作成する目的は、これらのフォームをオフラインで実行可能にすることです。DB2 Web Query 環境に接続していない場合があるため、新しいプロシジャは、参照されているオブジェクトをすべて削除し、そのプロシジャにこれらのオブジェクトを直接追加します。レイアウト内のコントロールが複数のリクエストをサーバに送信する必要がある場合、そのレイアウトはサポートされません。

プロシジャとしてエクスポートする場合、次の変換が実行されます。

- 参照したプロシジャが読み込まれ、保存したプロシジャに書き込み (埋め込み) されません。
- active report および active chart オブジェクトの表示フォーマットは、HTML フォーマットに変換されます。たとえば、レイアウトに Excel、PowerPoint、または PDF ドキュメントが埋め込みまたは参照されている場合、これらのドキュメントはすべて HTML フォーマットに変換されます。

active report (AHTML) フォーマットは保持されます。

- イメージファイルへの参照は削除され、イメージは HTML コードとしてプロシジャに埋め込まれます。

このコードは大規模になる可能性があるため、プロシジャとして保存するレイアウトには小さいイメージのみを使用することをお勧めします。

### 参照 プロシジャとして保存するオプションの制限事項

HTML コンポーザで [プロシジャとしてエクスポート] (Export As Procedure) オプションを使用する場合は、次の制限事項が適用されます。

- 静的および動的パラメータコントロールを使用する場合、静的または動的パラメータコントロールが含まれているレイアウトすべてにおいて、[プロシジャとしてエクスポート] (Export as Procedure) メニュー項目は無効になります。すべてのスケジュールレポートは、実行時にサーバに送信するリクエストを 1 つだけサポートします。これらのタイプのコントロールは、複数のリクエストをサーバに送信する必要があるため、オフラインでサポートすることはできません。
- エクスポートするプロシジャに背景イメージが含まれている場合、サイズの問題のため背景イメージはプロシジャに埋め込まれません。プロシジャは参照を保持します。オフラインモードでこの参照を取得できない場合、イメージは表示されません。
- カスケードスタイルシートを使用したプロシジャをエクスポートする場合、参照されたスタイルシートはプロシジャには埋め込まれず、プロシジャは参照を保持します。オフラインモードでこの参照を取得できない場合、CSS ファイルのスタイルは適用されません。

### Active テクノロジダッシュボードのスケジュールと配信

HTML レイアウトをプロシジャ (.fex) として保存した場合、Report Broker でスケジュールすることができます。

## HTML コンポーザによる RIA の作成

### トピックス

RIA の概要

HTML コンポーザによる RIA の作成

RIA サンプル使用上の注意

リッチインターネットアプリケーション (RIA) は、ブラウザ内にインタラクティブ Web ページを作成することを可能にします。RIA を使用して、Windows ベースのグラフィカル ユーザーインターフェイスに匹敵する、Web アプリケーションの外観を設計することができます。RIA によって、豊富で強力なグラフィックとテーマが提供されます。オブジェクトの RIA のテーマとアニメーションのプロパティは、HTML コンポーザの [デザイン] (Design) タブで設定することができます。また、既存のページを RIA に変更することや、新しいページを RIA として作成することもできます。

### RIA の概要

HTML コンポーザで RIA を作成するには、次の手順を実行します。

- HTML ページのドキュメントプロパティで、RIA を有効にする。

**注意：**RIA を有効にすると、HTML コンポーザに [RIA コンポーネント] (RIA Components) ツールバーが追加されます。[RIA コンポーネント] (RIA Components) ツールバーには、[ウィンドウ] (Window) オプションおよび [アコーディオン] (Accordion) オプションがあります。これらのコンポーネントは追加のコントロールで、RIA テーマが有効な場合にのみ使用可能です。RIA テーマを適用すると、従来のコントロール、ボタン、タブなどは、すべて RIA の外観に継承されます。

- RIA ウィンドウコンポーネントを使用すると、HTML ページに移動とサイズ変更が可能なウィンドウを作成することができ、これらのウィンドウは、その他のオブジェクトのコンテナとして機能します。
- RIA アコーディオンコントロールコンポーネントを使用して、スクロール可能なコントロール内に、複数のページを作成し、それぞれにオブジェクトを格納することができます。
- HTML ページのオブジェクトにアニメーションのプロパティを設定する。

**注意：**テンプレートとともに作成した HTML ページで、RIA テーマを使用することはできません。

## HTML コンポーザによる RIA の作成

### トピックス

RIA へのアニメーションプロパティの適用

### 手順/構文

RIA テーマを適用するには

RIA ページを作成するには

RIA ウィンドウコンポーネントを追加するには

ウィンドウコントロールサイズを最小化するには

RIA アコーディオンコントロールコンポーネントを追加するには

HTML コンポーザを使用して、既存のページに RIA テーマを適用することができます。また、ページの RIA テーマを変更することもできます。RIA テーマは、テンプレートを使用せずに作成したページのみ適用できます。

**注意：**既存のページに RIA テーマを適用すると、作業中の HTML ページは上書きされます。元の HTML ファイルが上書きされないようにするには、そのファイルのコピーを作成しておく必要があります。

### 手順

#### RIA テーマを適用するには

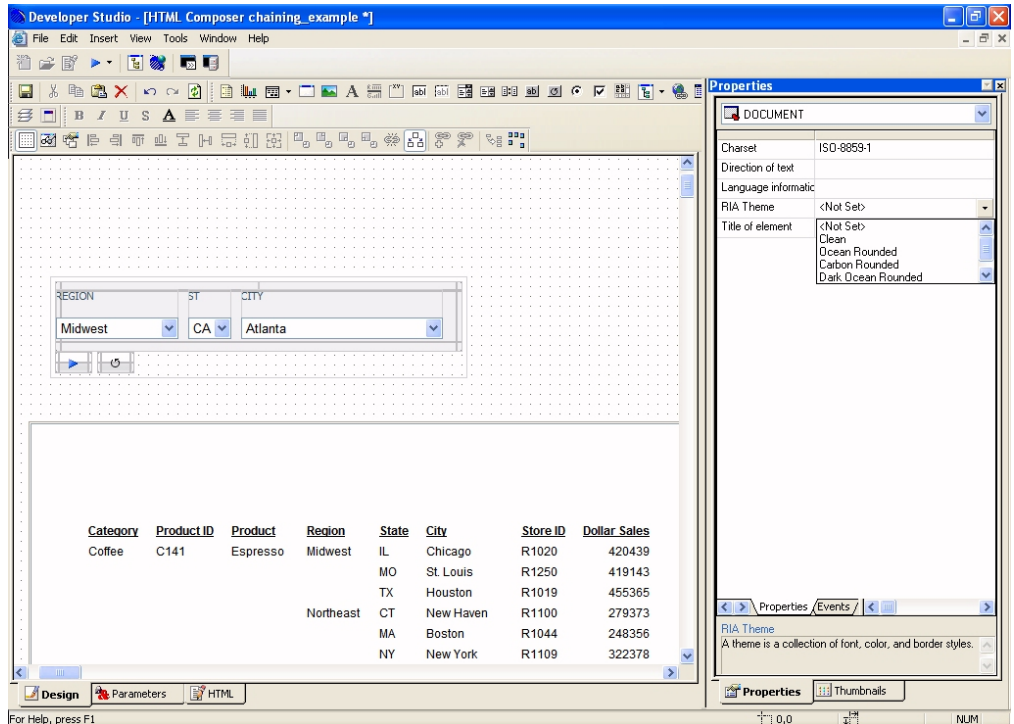
RIA ではない既存のページに RIA テーマを適用することで、HTML ページは RIA に変換されます。

**ヒント：**この手順は、ページの RIA テーマを変更する際にも適用されます。

1. HTML コンポーザで、既存の HTML ファイルを開きます。
2. [プロパティ](Properties) ウィンドウのドロップダウンリストから、[DOCUMENT] を選択します。

ドキュメントオブジェクトで使用可能なプロパティが表示されます。

3. [RIA テーマ] (RIA Theme) ドロップダウンリストから、テーマを選択します。



ページのコンポーネントすべてに、RIA テーマが適用されます。コンポーネントのいくつかのサイズ変更が必要な場合があります。

4. HTML ページを保存して実行し、RIA を表示します。

**注意：**RIA ページを変換前のページに元に戻すことはできません。HTML ページが上書きされないようにするには、そのファイルのコピーを作成するか、そのページを保存せずに閉じます。

下図は、既存のページに適用された RIA テーマを示しています。

The screenshot displays a web interface with a filter form at the top and a data table below. The filter form has three dropdown menus labeled 'REGION', 'ST', and 'CITY', with values 'Midwest', 'IL', and 'Chicago' respectively. Below the filters are two buttons: a blue play button and a refresh button. The data table below has the following columns: Category, Product ID, Product, Region, State, City, Store ID, and Dollar Sales.

Category	Product ID	Product	Region	State	City	Store ID	Dollar Sales
Coffee	C141	Espresso	Midwest	IL	Chicago	R1020	420439
	C142	Latte	Midwest	IL	Chicago	R1020	978340
Food	F101	Scone	Midwest	IL	Chicago	R1020	595069
	F102	Biscotti	Midwest	IL	Chicago	R1020	378412
	F103	Croissant	Midwest	IL	Chicago	R1020	549366
Gifts	G100	Mug	Midwest	IL	Chicago	R1020	376754
	G104	Thermos	Midwest	IL	Chicago	R1020	187901
	G110	Coffee Grinder	Midwest	IL	Chicago	R1020	233292
	G121	Coffee Pot	Midwest	IL	Chicago	R1020	204828

必要に応じて、オブジェクトへのアニメーションの設定や、RIA コンポーネント(ウィンドウコントロール、アコーディオンコントロール)の追加を行い、既存のページの外観をさらに向上させることもできます。詳細は、78 ページの「[RIA ページを作成するには](#)」を参照してください。

### 手順

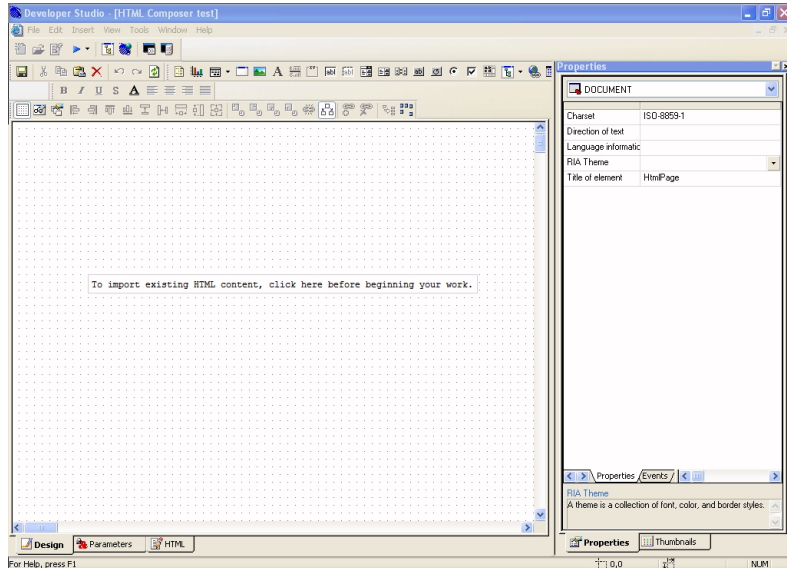
#### RIA ページを作成するには

ここでは、RIA ページを作成して RIA コンポーネントを追加し、ページ上のオブジェクトにアニメーションを適用する手順について説明します。

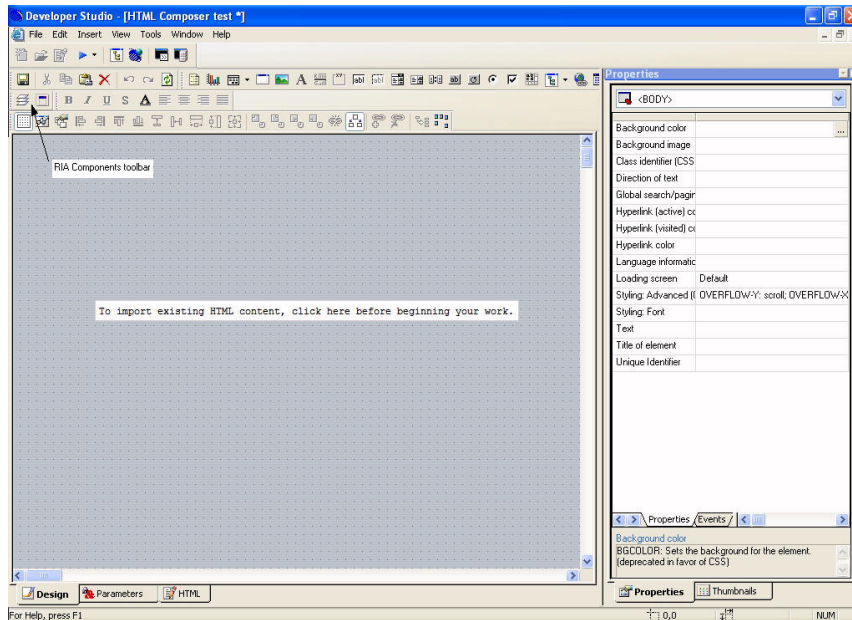
1. HTML コンポーザで、新しい HTML ファイルを作成します。
2. [プロパティ](Properties) ウィンドウのドロップダウンリストから、[DOCUMENT] を選択します。

ドキュメントで使用可能なプロパティが表示されます。

3. [RIA テーマ] (RIA Theme) ドロップダウンリストから、テーマを選択します。



HTML コンポーザに、[RIA コンポーネント] (RIA Component) ツールバーが追加されます。



4. [コンポーネント] (Component) ツールバーを使用して、レイアウトにボタンやイメージなどのオブジェクトを追加します。
5. 必要に応じて、[RIA コンポーネント] (RIA Components) ツールバーを使用して、レイアウトにウィンドウとアコーディオンの RIA オブジェクトを追加します。

**注意：**これらの追加コントロールはページを強化するオプションで、必須ではありません。RIA テーマを適用すると、ページは RIA になります。コンポーネントの追加方法についての詳細は、81 ページの「[RIA ウィンドウコンポーネントを追加するには](#)」および 87 ページの「[RIA アコーディオンコントロールコンポーネントを追加するには](#)」を参照してください。

6. [アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) ダイアログボックスで、オブジェクトにアニメーションのプロパティを設定します。
  - ❑ HTML コンポーザのデザイン表示から、オブジェクトを選択します。
  - ❑ [プロパティ] (Properties) ウィンドウで、[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) の [...] (参照) ボタンをクリックします。

[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) ダイアログボックスが開きます。

- ❑ 選択したオブジェクトのアニメーションのプロパティ (位置、サイズ、透明度) を設定します。

使用可能なアニメーションのプロパティについての詳細は、94 ページの「[アニメーションのプロパティダイアログボックス](#)」を参照してください。

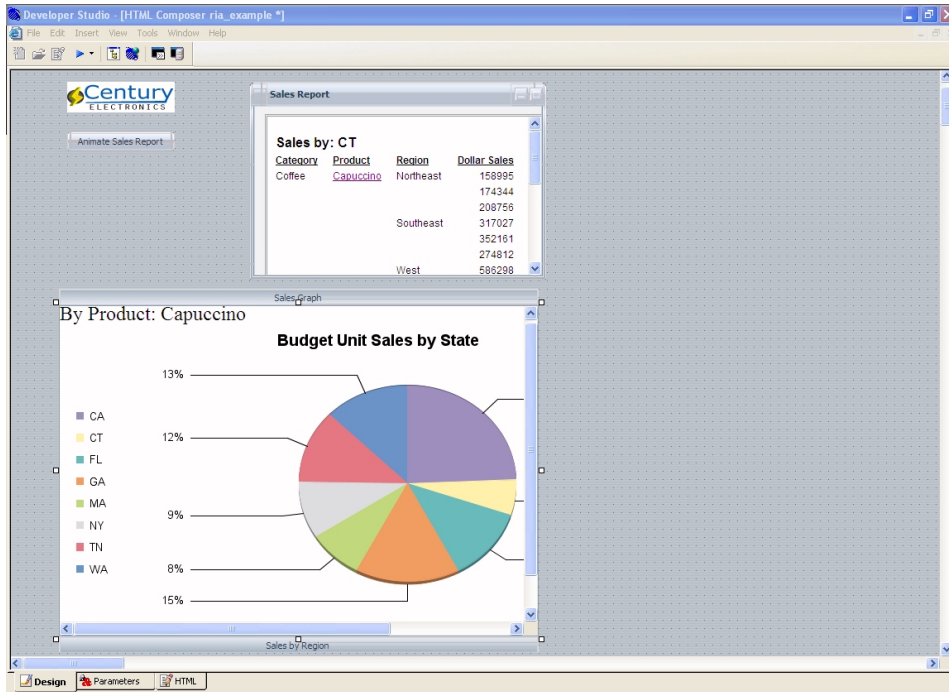
7. HTML ページを保存して実行し、RIA を表示します。

次の例では、RIA に次のコンポーネントが表示されています。

- ❑ イメージが挿入された HTML ページ
- ❑ クリックすると「Sales Report」ウィンドウにアニメーションが設定されるプッシュボタン
- ❑ 単一ページに「Sales Graph」を表示するアコーディオンコントロール
- ❑ 「Sales by Region」ページに入力パラメータ値を提供するコントロール付きのレポート



ページを切り替えるには、アコーディオンページのタイトルをクリックします。この例を作成する手順についての詳細は、98 ページの「RIA サンプル使用上の注意」を参照してください。



### 手順

#### RIA ウィンドウコンポーネントを追加するには

ウィンドウコンポーネントは、親コンポーネントとして動作し、ウィンドウ内にレポートやグラフなどの子を追加することを可能にします。ウィンドウオブジェクトは、実行時にアニメーションの設定、移動、サイズの変更が行えます。

1. [RIA コンポーネント] (RIA Components) ツールバーから、[ウィンドウ] (Window) ボタンを選択します。  
マウスポインタが十字カーソルに変わります。
2. 十字カーソルをドラッグし、ウィンドウを作成して好みのサイズに調整します。  
レイアウト内にウィンドウコンポーネントが作成され、「windown」という名前が付けられます。ここで、末尾の「n」には番号が割り当てられます。
3. ウィンドウコンポーネント内に、子オブジェクトを作成します。

**注意：**RIA コンポーネントには、子オブジェクトとして、レポート、グラフ、フレームを追加することができます。ルールを子に設定した場合、それらは選択したコンポーネント内でグループ化され、そのコンポーネント内で機能します。

オブジェクトをウィンドウコンポーネントの子として追加するには、次の手順を実行します。

- HTML コンポーザの [デザイン] (Design) タブで、[コンポーネント] (Component) ツールバーからオブジェクトを選択します。
- RIA コンポーネント内で、ツールバーから選択したオブジェクトコンポーネントを左クリックしてドラッグします。

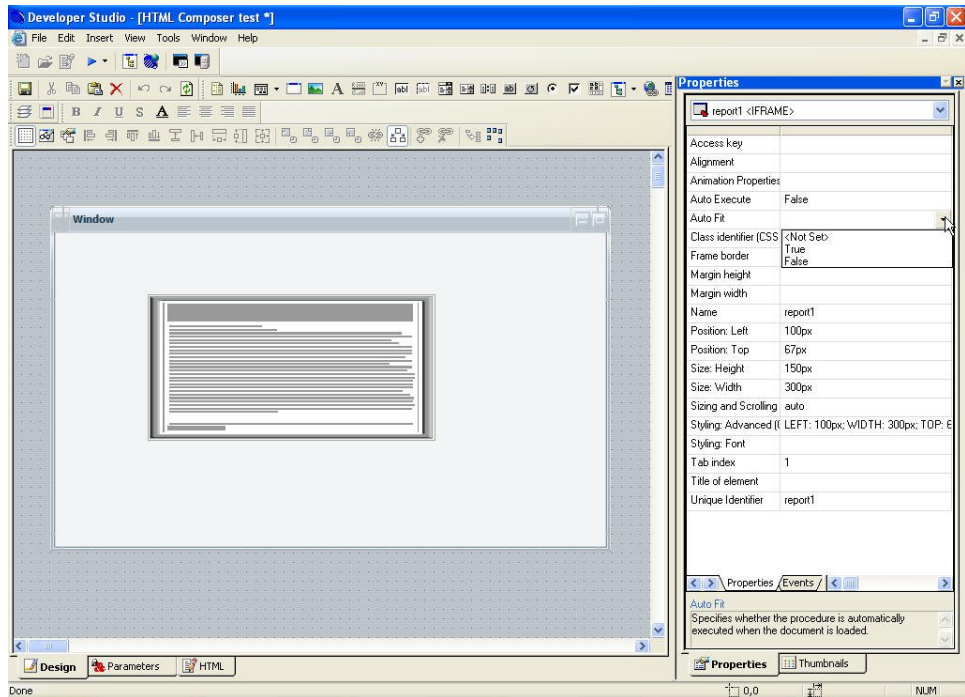
**ヒント：**[デザイン] (Design) ウィンドウにその他のオブジェクトが存在する場合、Alt キーを押しながら、そのオブジェクトを左クリックし、RIA コンポーネント上にドラッグすることができます。

- マウスボタンを離して、コンポーネント内のオブジェクトのサイズを変更します。

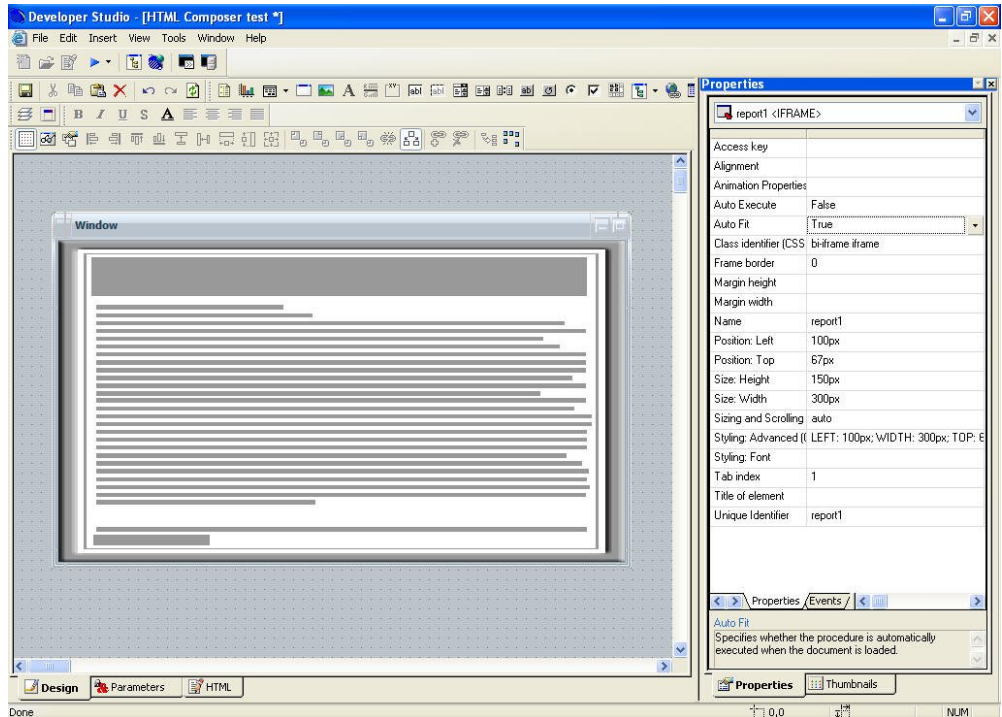
たとえば、ウィンドウ内で実行するオブジェクトを作成するには、[デザイン] (Design) タブで、[コンポーネント] (Component) ツールバーからレポートを選択し、ウィンドウオブジェクト上にドラッグしてマウスボタンを離し、ウィンドウコンポーネント内で、レポートオブジェクトのサイズを変更します。ウィンドウコンポーネント内では、レポートのオプションとプロパティは、すべて右クリックのコンテキストメニューから使用可能です。

## 2. HTML コンポーザによる Active テクノロジダッシュボードおよび RIA の作成

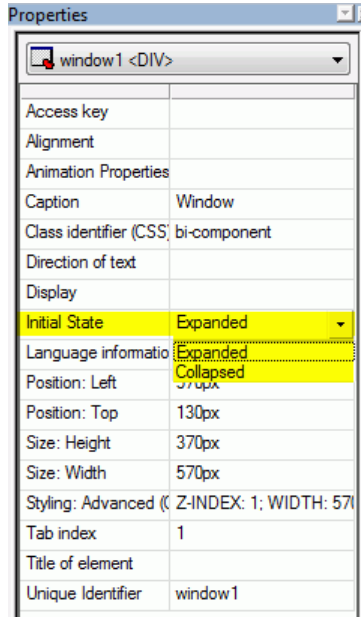
4. 下図のように、[プロパティ] (Properties) ウィンドウの [自動調整] (Auto Fit) ドロップダウンリストから [True] を選択すると、レポート、グラフ、またはフレームのサイズを自動的に変更し、ウィンドウまたはアコーディオンページ全体に表示することができます。



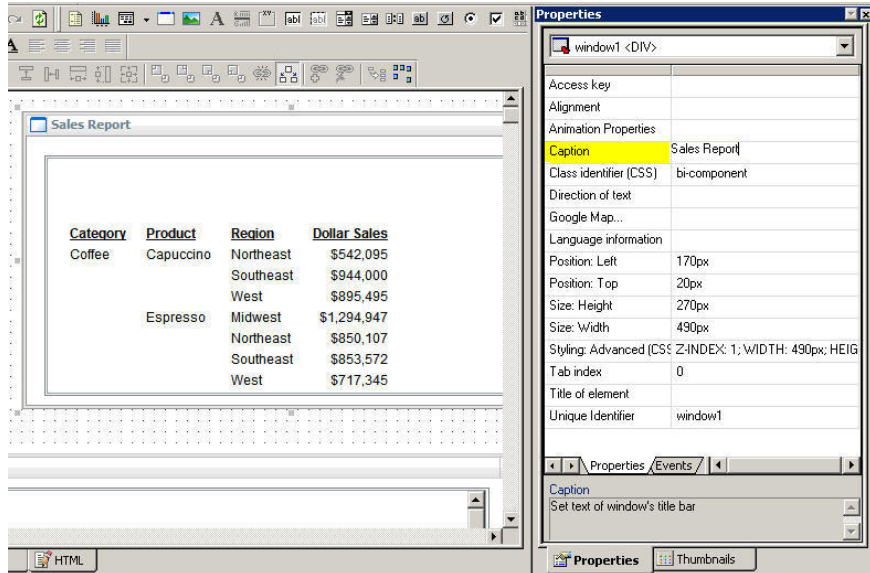
下図は、デザイン表示のレポートを示しています。サイズが自動的に変更され、ウィンドウ全体に表示されています。このプロパティは、実行時にも保持され、ウィンドウのサイズが変更された場合は、レポートのサイズも変更されます。



5. [プロパティ] (Properties) ウィンドウの [初期状態] (Initial State) オプションを使用して、開始時のウィンドウを開いた状態にするか、折りたたんだ状態にするかを選択することができます。[展開] (Expanded) と [折りたたみ] (Collapsed) の2つのオプションがあります。[展開] (Expanded) を選択すると、実行時にウィンドウが展開されます。デフォルト設定で、このオプションが選択されています。[折りたたみ] (Collapsed) を選択すると、実行時にウィンドウが折りたたまれます。下図は、[プロパティ] (Properties) ウィンドウのこのプロパティを示しています。



6. [プロパティ] (Properties) ウィンドウの [キャプション] (Caption) テキストボックスにテキストを入力し、デフォルトのウィンドウタイトルを変更することができます。



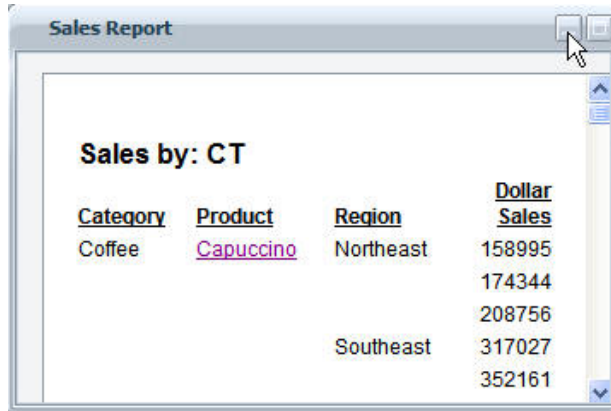
7. ウィンドウコンポーネント自体、およびそのウィンドウ内の任意の子オブジェクトにアニメーションを設定することができます。オブジェクトを選択し、[プロパティ] (Properties) ウィンドウの [アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) で、位置、サイズ、透明度を設定します。アニメーションのプロパティについての詳細は、94 ページの「[RIA へのアニメーションプロパティの適用](#)」を参照してください。

### 手順

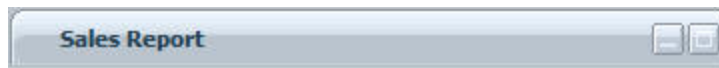
#### ウィンドウコントロールサイズを最小化するには

ウィンドウコントロールの [最小化] (Minimize) ボタンおよび [元のサイズに戻す] (Restore) ボタンにより、ウィンドウのサイズを最小化してタイトルバーのみを表示したり、元のサイズに戻したりすることができます。

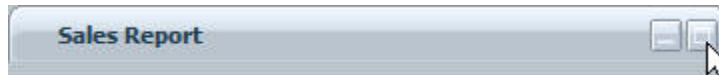
1. 下図のように、コントロールの [最小化] (Minimize) ボタンをクリックします。



下図のように、ウィンドウは折りたたまれて、タイトルバーのみが表示されます。



2. ウィンドウのサイズを元に戻すには、下図のように、コントロールの [元のサイズに戻す] (Restore) ボタンをクリックします。



ウィンドウは、元のサイズに戻ります。

## 手順

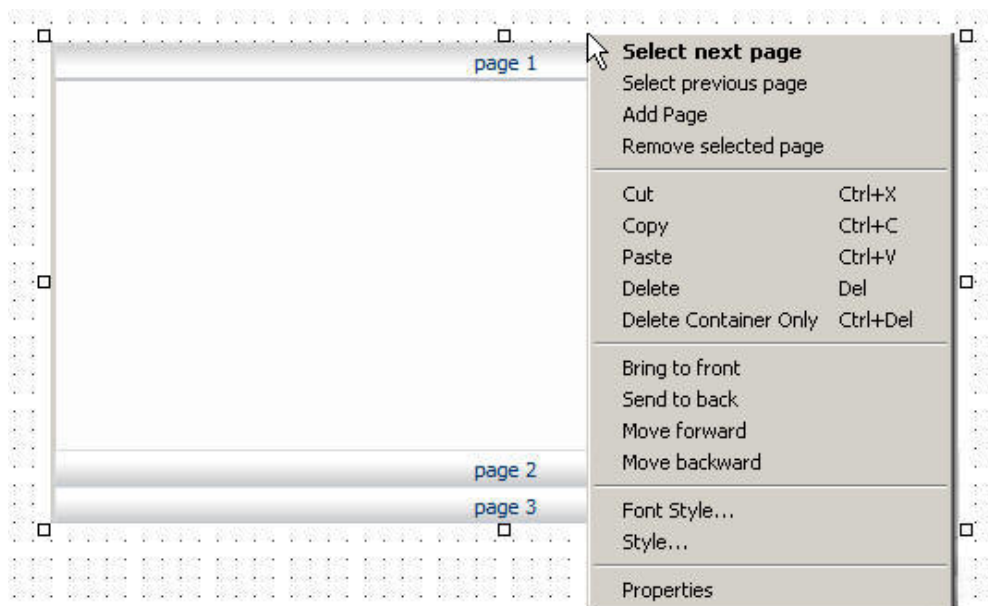
### RIA アコーディオンコントロールコンポーネントを追加するには

アコーディオンコントロールは、親コンポーネントとして動作し、コントロール内にスクロール可能な複数のページを作成することを可能にします。各ページには、子オブジェクトを格納します。アコーディオンコントロールには、実行時にアニメーションを設定することができます。

1. [RIA コンポーネント] (RIA Components) ツールバーから、[アコーディオンコントロール] (Accordion Control) ボタンを選択します。  
マウスポインタが十字カーソルに変わります。
2. 十字カーソルをドラッグしてアコーディオンコントロールを作成し、必要に応じてサイズを調整します。

3 ページの acordeion コントロールが作成され、「accordionn」という名前が付けられます。ここで、末尾の「n」には番号が割り当てられます。

3. acordeion コントロールを選択した際の右クリックのコンテキストメニューを使用して、acordeion コントロールへのページの追加や削除が行えます。



4. acordeion コントロールページに、子オブジェクトを追加します。

**注意：**RIA コンポーネントには、子オブジェクトとして、レポート、グラフ、フレームを追加することができます。ロールを子に設定した場合、それらは選択したコンポーネント内でグループ化され、そのコンポーネント内で機能します。

acordeion コントロールで選択したページ内に、子オブジェクトを追加するには、次の手順を実行します。

- ❑ HTML コンポーザの [デザイン] (Design) タブで、[コンポーネント] (Component) ツールバーからオブジェクトを選択します。
- ❑ RIA コンポーネント内で、ツールバーから選択したオブジェクトコンポーネントを左クリックしてドラッグします。

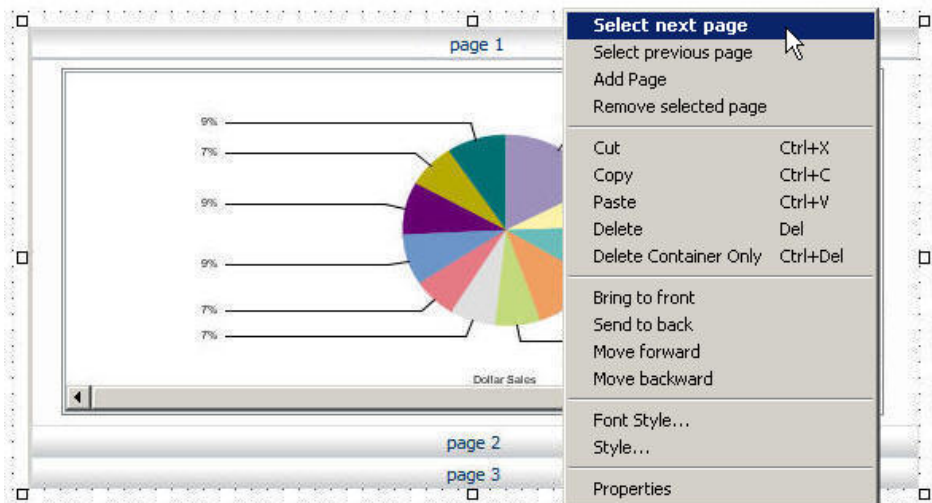
**ヒント：**[デザイン] (Design) ウィンドウにその他のオブジェクトが存在する場合、Alt キーを押しながら、そのオブジェクトを左クリックし、RIA コンポーネント上にドラッグすることができます。



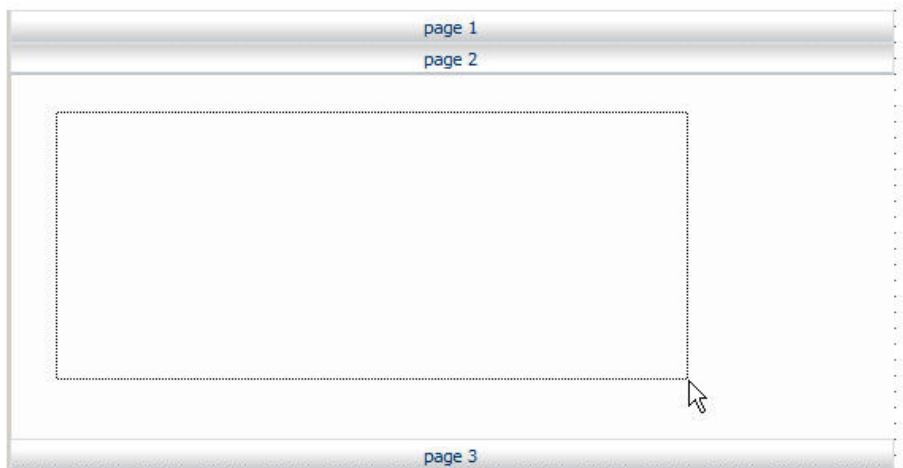
- マウスボタンを離して、コンポーネント内のオブジェクトのサイズを変更します。  
たとえば、アコーディオンページ内で実行するグラフを作成するには、[デザイン] (Design) タブで、[コンポーネント] (Component) ツールバーからグラフを選択し、選択したアコーディオンページ内にドラッグしてマウスボタンを離し、アコーディオンコンポーネント内で、グラフオブジェクトのサイズを変更します。アコーディオンコンポーネント内では、グラフのオプションとプロパティは、すべて右クリックのコンテキストメニューから使用可能です。

5. アコーディオンコントロール内のその他のページに、オブジェクトを追加します。アコーディオンコンポーネントを右クリックし、コンテキストメニューから [次のページを選択] (Select next page) を選択します。

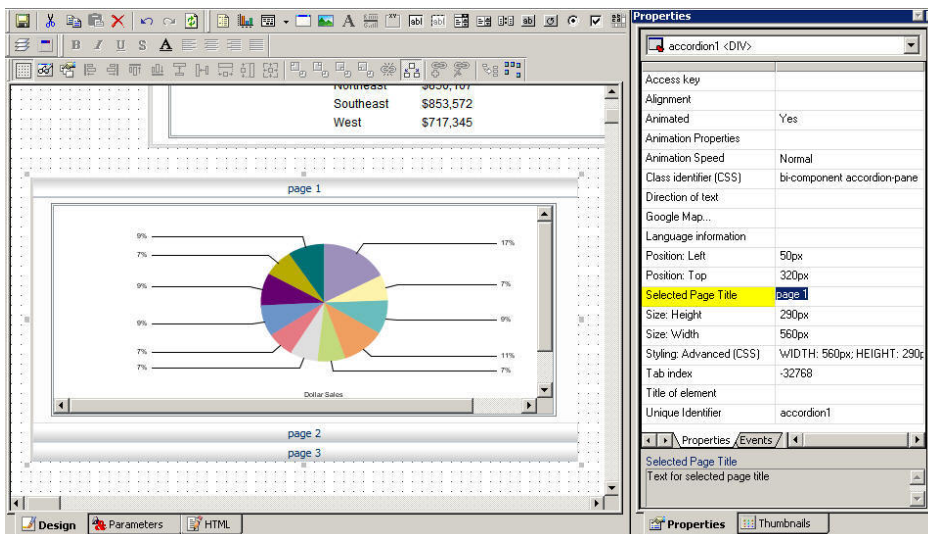
ヒント：アコーディオンコントロール内でダブルクリックすると、選択したページが閉じて、アコーディオンコントロールの次のページが開きます。



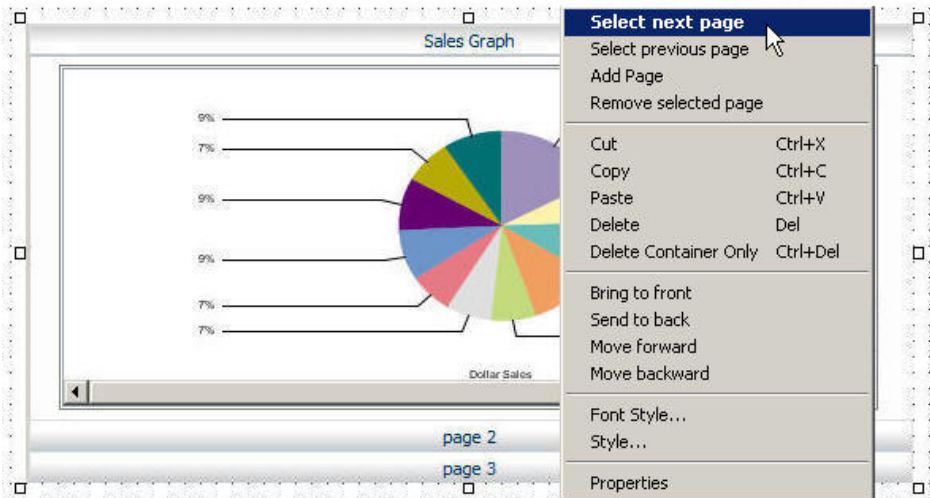
アコーディオンコントロールで、次のページが選択されます。アコーディオンコンポーネントで選択したページ内に、レポート、グラフ、フレームなどのオブジェクトを挿入し、サイズを変更します。



6. [プロパティ] (Properties) ウィンドウの [選択ページタイトル] (Selected Page Title) プロパティのテキストボックスにテキストを入力し、ページタイトルを変更することができます。

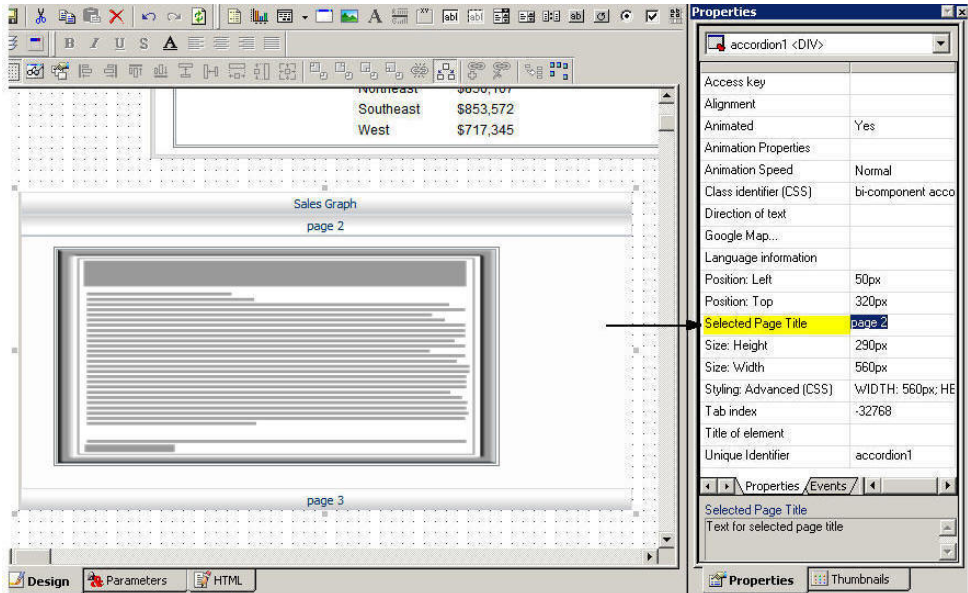


7. 別のアコーディオンページの名前を変更するには、そのアコーディオンコンポーネントを右クリックし、[次のページを選択] (Select next page) を選択します。



アコーディオンコントロールで、次のページが選択されます。[プロパティ](Properties) ウィンドウの [選択ページタイトル] (Selected Page Title) プロパティのテキストボックスに、ページ名を入力します。

ヒント：アコーディオンで目的のページを選択するには、この操作 (アコーディオンコンポーネントを選択してコンテキストメニューから [次のページを選択] (Select next page) を選択) を何回か繰り返します。アコーディオンコントロール内でダブルクリックすると、選択したページが閉じて、アコーディオンコントロールの次のページが開きます。



8. アニメーションのオンオフ、およびページ切り替え時のアニメーション速度を設定し、RIA でのアコーディオンページ速度の動作に関して、アコーディオンコントロールのプロパティを設定することができます。

アコーディオンページの速度のプロパティは、アコーディオンコンポーネントを選択し、[プロパティ] (Properties) ウィンドウの [アニメーション] (Animated) および [アニメーションの速度] (Animation Speed) で指定します。

- [アニメーション] (Animated) を [はい] (Yes) に設定します。アコーディオンコントロールのアニメーションのデフォルト設定はオンで、アコーディオンページの切り替え時のアニメーション速度を設定することができます。デフォルトの速度は、[標準] (Normal) です。

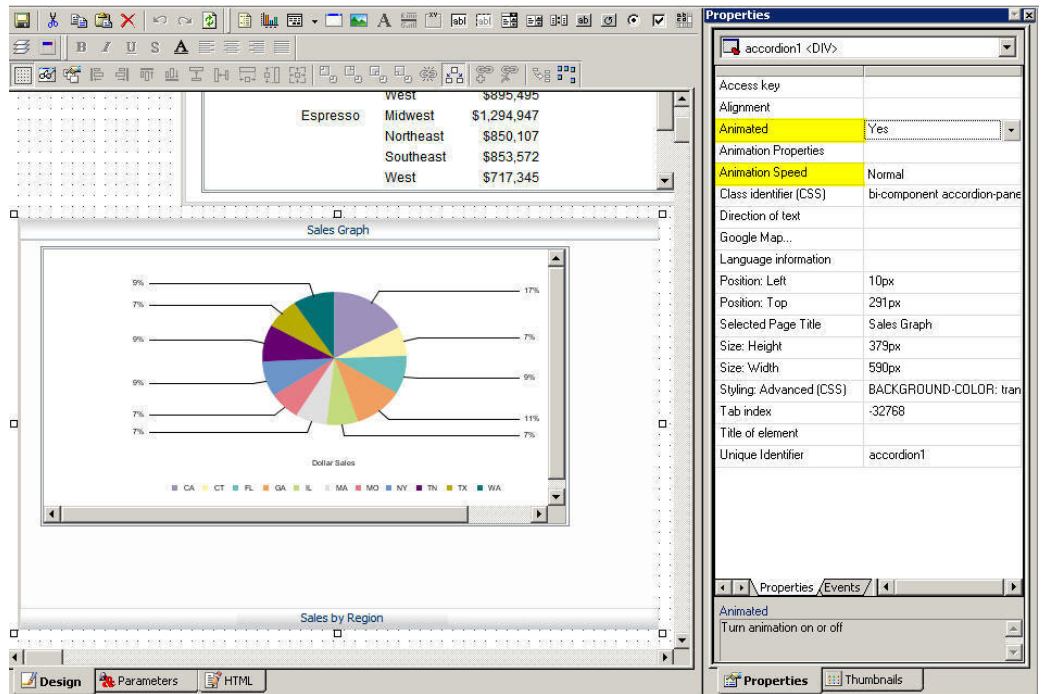
アコーディオンコントロールの [アニメーション] (Animated) で [いいえ] (No) を選択すると、[アニメーションの速度] (Animation Speed) の設定は無視され、RIA でデフォルトの速度が表示されます。

## 2. HTML コンポーザによる Active テクノロジダッシュボードおよび RIA の作成

- [アニメーションの速度] (Animation Speed) のデフォルト設定は [標準] (Normal) です。アニメーションの速度は、アコーディオンコントロールのページ切り替えの速度を表します。[最低速] (Very Slow)、[遅く] (Slow)、[標準] (Normal)、[速く] (Fast)、[最高速] (Very Fast) から選択することができます。

アニメーションの速度は、[アニメーション] (Animated) を [はい] (Yes) に設定した場合にのみ適用されます。

下図は、デフォルトのアニメーションとアニメーションの速度を設定したアコーディオンコントロールを示しています。



9. アニメーションは、アコーディオンコンポーネント自体、およびアコーディオンページ内の任意のオブジェクトに設定することができます。オブジェクトを選択し、[プロパティ] (Properties) ウィンドウの [アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) で、位置、サイズ、透明度を設定します。アニメーションのプロパティについての詳細は、94 ページの「[RIA へのアニメーションプロパティの適用](#)」を参照してください。

**注意：**これらの位置、サイズ、透明度のプロパティは、RIA のアコーディオンページに特化した [アニメーション] (Animated) プロパティと [アニメーションの速度] (Animation Speed) プロパティとは異なります。

### RIA へのアニメーションプロパティの適用

#### 参照

アニメーションのプロパティダイアログボックス

RIA にアニメーションのプロパティを追加して、Web アプリケーションに視覚的效果と動画的な動作を作成することができます。[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) ダイアログボックスは、HTML コンポーザで、[プロパティ] (Properties) ウィンドウの [プロパティ] (Properties) タブから使用することができます。HTML ページのオブジェクトのアニメーションのオプション (位置、サイズ、透明度) は、デフォルト設定では有効ではありません。

RIA のアニメーションのプロパティは、HTML コンポーザの [アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) ダイアログボックスで適用することができます。

**注意：**すべてのオブジェクトで、アコーディオンページ速度を除き、アニメーションのプロパティは、デフォルト設定では無効になっています。

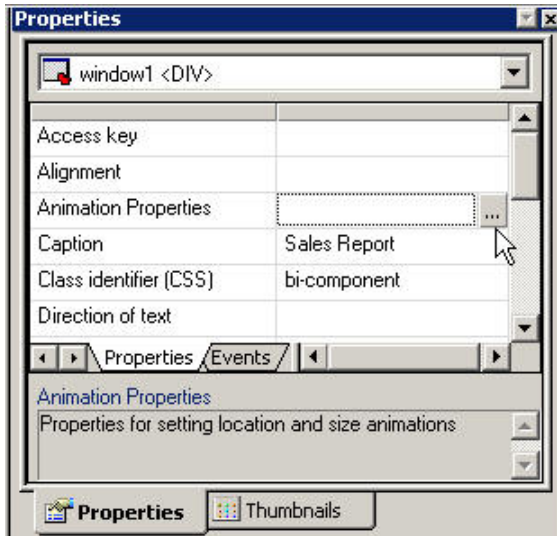
#### 参照

### アニメーションのプロパティダイアログボックス

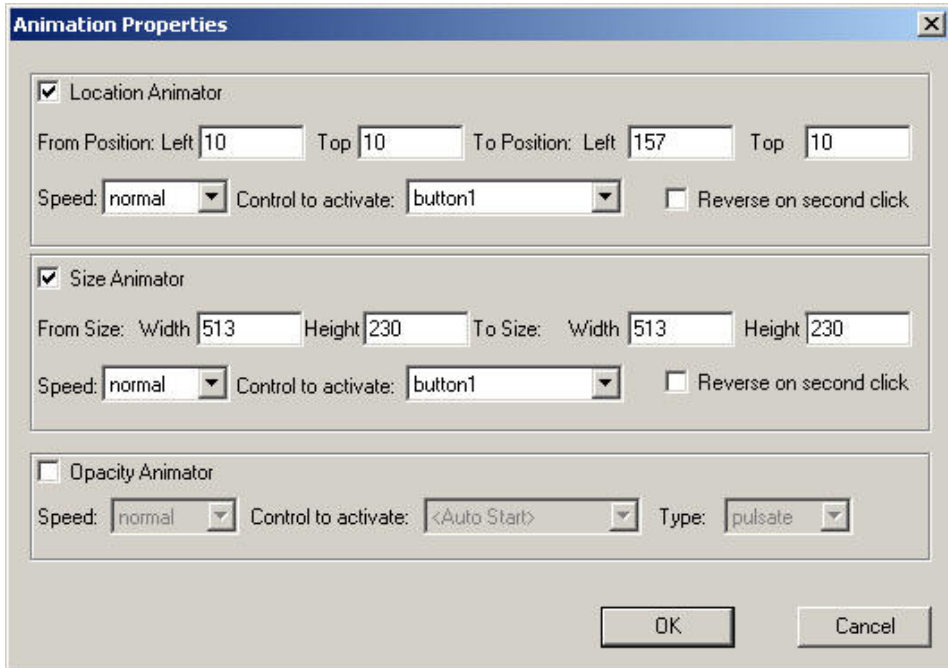
[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) ダイアログボックスを使用して、HTML ページの RIA オブジェクトのアニメータの位置、サイズ、透明度のオプションを設定することができます。

**注意：**[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) オプションは、ページで RIA テーマを有効にした場合に限り、[プロパティ] (Properties) ウィンドウから使用することができます。レポート、グラフ、ボタン、ウィンドウ、アコーディオンなど、ページのオブジェクトすべてに、アニメーションのプロパティを設定することができます。

下図のように、HTML コンポーザの [プロパティ] (Properties) ウィンドウで、[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) の [...] (参照) ボタンをクリックします。



下図のように、[アニメーションのプロパティ](Animation Properties) ダイアログボックスが開きます。



### アニメータの位置 (Location Animator)

[アニメータの位置] (Location Animator) オプションは、オブジェクトのアニメータの位置を設定します。アニメータは、ページロードの完了後、自動的またはコントロールのアクションに基づいて、オブジェクトのある位置から別の位置への移動が指定されます。

#### 開始位置/終了位置 左/上 (From/To Position Left/Top)

開始位置/終了位置 (From/To Position) は、アニメーションイベントの開始位置と終了位置を指定します。

**注意：**[開始位置] (From) の [左/上] (Left/Top) の値は、レイアウトでの現在の位置と同一にすることをお勧めします。同一にしない場合、アニメーションの開始時に、開始位置の左/上に移動されます。

#### 速度 (Speed)

アニメーションの加速と減速を制御します。最低速から最高速までのオプションがあり、標準がデフォルトの選択です。



### アクティブにするコントロール (Control to activate)

アニメーションを開始するイベントを指定します。デフォルト設定は [自動スタート] (Auto Start) で、アニメーションは自動的に開始します。それ以外の場合は、ドロップダウンリストから別のオブジェクトを選択し、たとえばボタンなど、アニメーションの開始に使用する、別のコントロールを指定します。

### 2 回目のクリックで逆にする (Reverse on second click)

アクティブにするコントロールの 2 回目のクリックで、アニメーションが逆に実行されることを指定します。

### アニメータのサイズ (Size Animator)

[アニメータのサイズ] (Size Animator) オプションは、オブジェクトのアニメーションの幅と高さを設定します。これにより、アニメーションが選択された際に、オブジェクトサイズの拡大と縮小が有効になります。

### 開始サイズ/終了サイズ 幅/高さ (From/To Size Width/Height)

[開始サイズ] (From Size)/[終了サイズ] (To Size) は、アニメーションイベント実行後の、オブジェクトの開始サイズと終了サイズを指定します。

### 速度 (Speed)

アニメーションの加速と減速を制御します。最低速から最高速までのオプションがあり、標準がデフォルトの選択です。

**注意：**アニメーションの位置とサイズの完了までの所要時間は同一です。同時に使用した場合、これらは同期されます。

### アクティブにするコントロール (Control to activate)

アニメーションを開始するイベントを指定します。デフォルト設定は [自動スタート] (Auto Start) で、アニメーションは自動的に開始します。それ以外の場合は、ドロップダウンリストから別のオブジェクトを選択し、たとえばボタンなど、アニメーションの開始に使用する、別のコントロールを指定します。

### 2 回目のクリックで逆にする (Reverse on second click)

アクティブにするコントロールの 2 回目のクリックで、アニメーションが逆に実行されることを指定します。

### アニメータの透明度 (Opacity Animator)

[アニメータの透明度] (Opacity Animator) オプションは、オブジェクトのアニメータの速度を設定します。透明度を設定すると、ページの RIA コンポーネントのフェードが有効になります。

### 速度 (Speed)

アニメーションの加速と減速を制御します。最低速から最高速までのオプションがあり、標準がデフォルトの選択です。

### アクティブにするコントロール (Control to activate)

アニメーションを開始するイベントを指定します。デフォルト設定は [自動スタート] (Auto Start) で、アニメーションは自動的に開始します。それ以外の場合は、ドロップダウンリストから別のオブジェクトを選択し、たとえばボタンなど、アニメーションの開始に使用する、別のコントロールを指定します。

### タイプ (Type)

背景の透明度を設定します。オプションには、[フェードイン/アウト] (pulsate)、[点滅] (blink)、フェードイン (fadeIn)、[フェードアウト] (fadeOut) があり、[フェードイン/アウト] (pulsate) がデフォルトの選択です。

## RIA サンプル使用上の注意

### 参照

RIA テーマとスタイルシート/テンプレートの一致

RIA 作成上の注意

ここでは、RIA を作成する際の注意、およびサンプルの RIA を作成する手順について説明します。

## 参照

## RIA テーマとスタイルシート/テンプレートの一致

RIA テーマが適用される際に継承される RIA の外観は、レポートまたはグラフのスタイルシート/テンプレートにより一致させ、スタイルをテーマと統合することができます。下表は、各ツールでテーマに対応する RIA テーマとスタイルシート/テンプレートについての説明です。

RIA テーマ	BI Portal テーマ	レポート/グラフスタイルシート
クリーン	すべて	すべて
オーシャン 2	深緑青	ENria_ocean_rounded_theme
カーボン	黒	ENria_carbon_rounded_theme
オーシャン 1	緑	ENria_dark_ocean_rounded_theme
オリーブ	緑	ENria_olive_rounded_theme
青	青	ENria_blue_theme
濃灰色	黒	ENria_charcoal_theme
灰色	銀色	ENria_gray_theme
ハイコントラスト	すべて	すべて
ルビー	赤	ENria_ruby_theme
Information Builders	Information Builders	ENInformationBuilders_Dark ENInformationBuilders_DarkComp ENInformationBuilders_Default1 ENInformationBuilders_Light1 ENInformationBuilders_Light2 ENInformationBuilders_Medium1 ENInformationBuilders_Medium2

RIA テーマ	BI Portal テーマ	レポート/グラフスタイルシート
黒	黒	ENBlack_Dark ENBlack_DarkComp ENBlack_Light1 ENBlack_Light2 ENBlack_Medium1 ENBlack_Medium2 ENblack_theme ENblackbluepurple
青	青	ENBlue_Dark ENBlue_DarkComp ENBlue_Light1 ENBlue_Light2 ENBlue_Medium1 ENBlue_Medium2 ENblue_theme ENblue-medium
緑	緑	ENGreen_Dark ENGreen_DarkComp ENGreen_Light1 ENGreen_Light2 ENGreen_Medium1 ENGreen_Medium2 ENgreen-gray

RIA テーマ	BI Portal テーマ	レポート/グラフスタイルシート
オレンジ	オレンジ	ENOrange_Dark ENOrange_DarkComp ENOrange_Light1 ENOrange_Light2 ENOrange_Medium1 ENOrange_Medium2
紫	紫	ENPurple_Dark ENPurple_DarkComp ENPurple_Light1 ENPurple_Light2 ENPurple_Medium1 ENPurple_Medium2 ENpurple-light
赤	赤	ENRed_Dark ENRed_DarkComp ENRed_Light1 ENRed_Light2 ENRed_Medium1 ENRed_Medium2 ENred-bronze
銀色	銀色	ENSilver_Dark ENSilver_DarkComp ENSilver_Light1 ENSilver_Light2 ENSilver_Medium1 ENSilver_Medium2

RIA テーマ	BI Portal テーマ	レポート/グラフスタイルシート
深緑青	深緑青	ENTTeal_Dark ENTTeal_DarkComp ENTTeal_Light1 ENTTeal_Light2 ENTTeal_Medium1 ENTTeal_Medium2

スタイルシートおよびテンプレートを適用する場合は、次のことに注意することが重要です。

- レポートアシスタントの使用時にスタイルシートファイルを表示するためには、[Managed Reporting] ドメインの [その他] (Other) フォルダにスタイルシートファイルを格納する必要があります。
- レポートアシスタントでは、スタイルファイルの選択ツールの [定義済みテンプレート] (Predefined Templates) セクションから、適切な名前を選択することができます。

## 参照

### RIA 作成上の注意

HTML コンポーザで RIA を作成する際には、次のことが適用されます。

- RIA テーマとして [オリーブ] (Olive Rounded) を使用し、パラメータ付きレポートを参照する場合、[スケジュール] (Schedule) ボタンはブランクになります。[スケジュール] (Schedule) ボタンは、その他の RIA テーマを使用すると、正しく表示されます。
- RIA は、フォントサイズとして、ピクセルのみをサポートします。これは、Windows の制限事項です。
- iframe、レポート、グラフでは、幅を指定した場合、境界のみが表示されます。RIA のデフォルト設定では、境界は、1 ピクセルの実線になります。これよりも大きい値を指定する場合は、[カスタム] (Custom) を選択してから、数値をピクセル単位で指定します。これは、Windows の制限事項です。
- RIA では、上線はサポートされません。これは、Windows の制限事項です。
- 次の機能は、RIA ではサポートされません。

- 複数選択ドロップダウンリストコントロール
- グローバル検索およびページコントロール
- ActiveX をその他のコントロールの子にすること
- 元に戻す/繰り返しオプション
- RIA テーマは、オブジェクトに個別に適用したスタイル設定すべてを上書きします。
- RIA ではないページに CSS クラス参照が含まれている場合、RIA に変換すると、CSS 参照は HTML ソースから削除され、RIA の CSS に変換されます。これは、RIA テーマに、それ自体のスタイル設定が格納されているため、多くの場合、スタイル設定を更新し、RIA テーマに適合させる必要が生じます。
- RIA を有効にしたページを AHTML レポートで使用する場合は、[ファイル](File) メニューの [プロシジャとしてエクスポート] (Export as Procedure) オプションは使用できません。
- RIA ではないページを RIA ページにマイグレートする場合、RIA フレームワークのブラウザへのロードが完了するまでは、コントロールは使用不可になるため、コントロールに適合しない JavaScript コールを、window\_onload 関数に含めることはできません。つまり、これらの JavaScript コールは、window\_onload 関数外に移動し、ページおよび RIA フレームワークのロード後に呼び出される、それ以外の関数に配置する必要があります。
- RIA ではない HTML ページをマイグレートすると、カスタムスタイル設定は、すべて削除されます。RIA テーマを適用すると、固有のスキームとスタイルが設定されます。RIA ページの変換後、カスタムスタイル設定を追加することができます。
- RIA で、フォントサイズと境界サイズの単位を指定する際は、整数およびピクセルのみがサポートされます。
- 作業領域から RIA ウィンドウまたはアコーディオンコントロールに、既存のオブジェクトを追加する場合、コピーまたは移動の操作で、RIA 親コンポーネントにオブジェクトを追加することはできません。RIA コンポーネントの子にするには、Alt キーを押しながらオブジェクトを左クリックし、オブジェクトを RIA コンポーネントにドラッグします。
- [挿入] (Insert) メニューを使用して、オブジェクトを RIA コントロールの子として追加する場合は、作業領域の空きスペースにオブジェクトを描画し、Alt キーを押しながら、そのオブジェクトを親オブジェクトにドラッグし、マウスボタンを離します。

- ❑ アコーディオンページの位置を変更することはできません。
- ❑ HTML コンポーザで RIA コントロールをサポートするため、InfoAssist には、追加のスタイルシートテンプレートが用意されています。

**注意：**RIA スタイルシートテンプレートのファイル拡張子は、ツールによって異なりますが、すべて `ria_stylesheet_theme.file` として表示され、ファイル拡張子は `.txt` または `.sty` です。使用可能な RIA スタイルシートには、次のものがあります。

- ❑ `ria_carbon_rounded_theme`
- ❑ `ria_dark_ocean_rounded_theme`
- ❑ `ria_ocean_rounded_theme`
- ❑ `ria_olive_rounded_theme`
- ❑ `ria_blue_theme`
- ❑ `ria_charcoal_theme`
- ❑ `ria_gray_theme`
- ❑ `ria_ruby_theme`
- ❑ `ria_turquoise_theme`

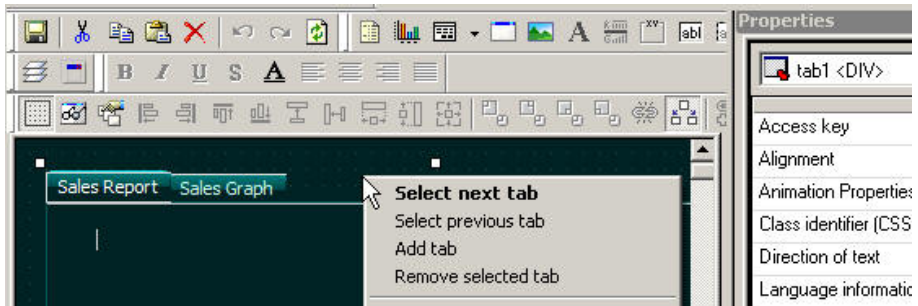
使用するツールでこれらのテンプレートのいずれかを選択すると、レポートとグラフに、HTML コンポーザで RIA テーマを適用する場合と同一の RIA の外観を継承することができます。特定の RIA テーマの外観に一致するスタイルシートおよびテンプレートについての詳細は、99 ページの「[RIA テーマとスタイルシート/テンプレートの一致](#)」を参照してください。

- ❑ HTML コンポーザの [デザイン] (Design) タブでは、RIA コントロールのいくつかに複数の縦線が表示される場合があります。たとえば、アコーディオンコントロールを挿入すると、アコーディオンコントロールの各ページのタイトルバーに複数の縦線が表示されます。これらの線は、RIA テーマとして濃い色を使用している場合に、より顕著になります。これらの複数の線は、RIA ページの実行時には表示されません。
- ❑ RIA ページの一部として、レイアウトにタブコントロールを追加すると、HTML コンポーザの [デザイン] (Design) 表示で、タブの切り替えを行うことができます。タブを切り替えるには、目的のタブをダブルクリックするか、右クリックのコンテキストメニューから [次のタブを選択] (Select next tab) または [前のタブを選択] (Select previous tab) を選択します。

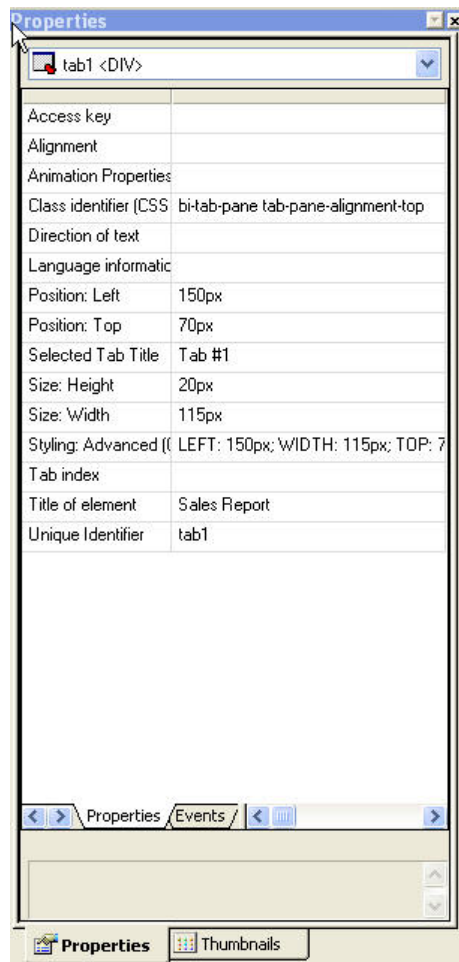


## 2. HTML コンポーザによる Active テクノロジダッシュボードおよび RIA の作成

下図は、これらのオプションを設定した RIA ページのタブコントロールを示しています。



**注意：**タブコントロールのテキストは、下図のように、[プロパティ] (Properties) ウィンドウで、[要素のタイトル] (Title of element) プロパティのテキストボックスにテキストを入力することで、変更することができます。



例

### HTML コンポーザによる RIA の作成

次の項目を表示する RIA を作成する場合について考察します。

- イメージ
- クリックすると「Sales Report」ウィンドウにアニメーションを設定するプッシュボタン

- 単一ページに「Sales Graph」を表示するアコーディオンコントロール
- 「Sales by Region」ページに入力パラメータ値を提供するコントロール付きのレポート

この例では、Developer Workbench の基本的な機能についての知識があることを想定しています。次の例では、以下の手順で RIA を作成します。

- RIA で使用するグラフを作成する。
- 既存の HTML ページを RIA に変換する。
- RIA ウィンドウを作成し、ドリルダウンを含むレポートを追加する。
- RIA ウィンドウにアニメーション設定ボタンを追加する。
- 1 ページにフレームを表示する RIA アコーディオンコントロール、別のページに連鎖コントロール付きのレポートを作成する。

### 1. RIA で使用するグラフを作成します。

RIA でドリルダウンレポートのターゲットとして使用する売上グラフを作成します。

#### a. Developer Workbench で、新しいプロシジャを作成します。

- [プロシジャ] (Procedures) フォルダを選択し、[ファイル] (File) メニューの [新規作成] (New) から [プロシジャ] (Procedure) を選択します。

または

- [プロシジャ] (Procedure) フォルダを右クリックし、コンテキストメニューから [新規作成] (New)、[プロシジャ] (Procedure) を選択します。

[プロシジャの追加] (Add Procedure) ダイアログボックスが表示されます。

#### b. [ファイル名] (File name) テキストボックスに、新しいプロシジャのファイル名として「graphbyproduct」と入力し、[開く] (Open) をクリックします。

プロシジャビューアが表示されます。

#### c. コンポーネントコネクタ (黄色いひし形) をクリックし、[アドバンスドグラフ] (Graph) を選択します。

#### d. ggsales.mas マスターファイルを選択し、[開く] (Open) をクリックします。

**ヒント：** Gotham Grinds Sales データソース (ggsales.mas) は、Developer Workbench の [localhost] フォルダの [ibisamp] アプリケーションに格納されています。これらのソースファイルは、使用するプロジェクトディレクトリにコピーしておくことができます。

InfoAssist が開きます。

- e. メインメニューから、[グラフの作成] (Build a Chart) を選択します。

ggsales.mas マスターファイルを選択し、[OK] をクリックします。

- f. メニューから [フォーマット] (Format) を選択し、[グラフタイプ] (Chart Types) セクションから [円] (Pie) を選択します。

InfoAssist が更新され、円グラフが表示されます。

- g. [State] をクリックして [クエリ] (Query) 下部の [円項目] (Slices) カテゴリにドラッグし、さらに [Budget Units] をクリックして [クエリ] (Query) セクション下部の [軸 (SUM)] (Measures (Sum)) カテゴリにドラッグします。

- h. [ホーム] (Home) メニューで [見出しと脚注] (Header & Footer) を選択し、「By Product:」と入力します。フィールドツリーの [見出し] (Heading) ウィンドウから [PRODUCT] を選択し、[見出しと脚注] (Header & Footer) ウィンドウにドラッグします。[見出しと脚注] (Header & Footer) ウィンドウに「<PRODUCT」が挿入されます。この位置は、「By Product」の後です。

見出しとして「By Product: <PRODUCT」が表示されます。[適用]、[OK] をクリックします。

- i. [データ] (Data) ウィンドウで、[Product] をクリックします。[ホーム] (Home) メニューで、[フィルタ] (Filter) ボタンをクリックします。フィルタツールが開きます。デフォルトの演算子として、[等しい] (Equal to) が選択されています。[追加] (Add) テキストボックスに、「Product Name」と入力します。[フィルタの追加] (add filter) ボタンをクリックします。[OK] をクリックすると、フィルタツールによって、パラメータ「WHERE PRODUCT EQUAL to Product Name」が作成されます。

- j. [フォーマット] (Format) メニューで、[ラベル] (Labels) ボタンをクリックします。これにより、[軸] (Axes) ボタンおよび [凡例] (Legend) ボタンが表示されます。[凡例] (Legend) ボタンをクリックし、[凡例の位置] (Legend Position) ドロップダウンリストから [左] (Left) を選択します。

- k. グラフとプロシジャビューアを保存して閉じます。

2. 既存の HTML ページを RIA に変換し、ページにオブジェクトを追加します。

- a. このマニュアルの 24 ページの「[連鎖への条件適用](#)」で作成した chaining\_example.htm のコピーを作成し、名前を ria\_example.htm に変更します。
- b. HTML コンポーザで、ria\_example.htm を開きます。
- c. [プロパティ](Properties) ウィンドウのドロップダウンリストから、[DOCUMENT] を選択します。

ドキュメントオブジェクトで使用可能なプロパティが表示されます。
- d. [RIA テーマ] (RIA Theme) ドロップダウンリストから、[クリーン] (Clean) を選択します。

ページ上のすべてのコンポーネントに RIA テーマが適用され、HTML コンポーザに [RIA コンポーネント] (RIA Components) ツールバーが追加されます。
- e. レポートのコンポーネントは、後で使用するため、これらのコントロールをページの下部に移動しておきます。
- f. [挿入] (Insert) メニューから、[コンポーネント] (Component)、[イメージ] (Images) を選択します。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。十字カーソルをクリックしてからドラッグし、イメージオブジェクトを作成してサイズを変更後、[ファイルを選択してください] (Get source file) ダイアログボックスからイメージを選択します。
- g. [コンポーネント] (Components) ツールバーから [プッシュボタン] (Push button) を選択し、[デザイン] (Design) タブのイメージの下部をドラッグします。
- h. [デザイン] (Design) タブでプッシュボタンを選択し、[プロパティ] (Properties) ウィンドウの [値] (Values) テキストボックスをダブルクリックすることで、ボタン名を変更します。

**ヒント：** ボタンオブジェクトは、[プロパティ] (Properties) ウィンドウでは、「button1<DIV>」として表示されます。
- i. [値] (Values) テキストボックスに「Animate Sales Report」と入力し、Enter キーを押します。
- j. [プロパティ] (Properties) ウィンドウで、[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) の [...] (参照) ボタンをクリックします。

[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) ダイアログボックスが開きます。

- k.** [アニメータの透明度] (Opacity Animator) のチェックをオンにして、透明度の設定を有効にします。
- l.** [タイプ] (Type) として [点滅] (blink) を選択し、[アクティブにするコントロール] (Control to activate) は <自動スタート (Auto Start)> のままにします。  
これにより、RIA ページで、プッシュボタンの点滅アニメーションが、自動的に開始することが指定されます。
- m.** [OK] をクリックし、[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) ダイアログボックスを閉じます。

### 3. RIA ウィンドウコンポーネントを作成し、アニメーションを設定します。

- a.** [RIA コンポーネント] (RIA Components) ツールバーから、[ウィンドウ] (Window) ボタンを選択します。
- b.** [デザイン] (Design) タブで、ウィンドウをクリックしてドラッグします。
- c.** マウスボタンを離し、オブジェクトのサイズを変更します。
- d.** [プロパティ] (Properties) ウィンドウの [キャプション] (Caption) テキストボックスに、「Sales Report」と入力し、ウィンドウの名前を変更します。

**ヒント：**RIA ウィンドウコンポーネントは、[プロパティ] (Properties) ウィンドウでは、「window1<DIV>」として表示されます。

- e.** [デザイン] (Design) タブで、[コンポーネント] (Components) ツールバーから [レポート] (Report) ボタンを選択し、ウィンドウオブジェクト内をドラッグしてから、マウスボタンを離し、ウィンドウコンポーネント内のレポートオブジェクトのサイズを変更します。
- f.** レポートオブジェクトをダブルクリックし、「ggsales.mas」を選択します。

**ヒント：**Gotham Grinds Sales データソース (ggsales.mas) は、Developer Workbench の [localhost] フォルダの [ibisamp] アプリケーションに格納されています。これらのソースファイルは、使用するプロジェクトディレクトリにコピーしておくことができます。

- g.** RIA ウィンドウで使用する売上レポートを作成し、Product フィールドにドリルダウンを設定します。
  - CATEGORY フィールド、PRODUCT フィールド、REGION フィールド、ST フィールドを、BY フィールドとして挿入し、ST フィールドを非表示にします。

- DOLLARS を SUM フィールドとして挿入します。
- ページ見出しに、「Sales by: <GGSales.SALES01.ST」を追加します。
- Product フィールドを選択して右クリックし、[オプション] (Options) を選択して [フィールドのプロパティ] (Field Properties) ダイアログボックスを開きます。
- [ドリルダウン] (Drill Down) タブを選択し、Product フィールドのカラムデータに、フレームでプロシジャを実行するドリルダウンを適用します。  

[アクティブオブジェクト] (Active Object) として、[カラムデータ] (Column Data) を選択します。[ドリルダウンのタイプ] (Drill Down Type) として、[プロシジャを実行する] (Execute Procedure) を選択します。[プロシジャ名] (Procedure name) として、この例の手順 1 で作成した [graphbyproduct.fex] を選択します。[ターゲットフレーム] (Target Frame) の位置として、「iframe1」と入力します。これは、HTML コンポーザで、後で追加します
- [ドリルダウン] (Drill Down) タブの [パラメータ付き] (With Parameters) セクションから、[追加] (Add) を選択し、[パラメータ名] (Parameter name) ドロップダウンリストから [PRODUCT] を選択します。これは、グラフで作成したパラメータです。[パラメータ値] (Parameter value) は [フィールド] (Field) のままにして、ドロップダウンリストから [GGSales.SALES01.PRODUCT] を選択します。
- レポートを保存して閉じます。  

RIA ウィンドウコンポーネントに、ドリルダウンレポートが表示されます。
- h.** レポートコンポーネントを選択し、[プロパティ] (Properties) ウィンドウの [自動調整] (Auto Fit) プロパティを [True] に設定します。
- i.** [デザイン] (Design) タブで RIA ウィンドウコンポーネントを選択し、[プロパティ] (Properties) ウィンドウで、[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) の [...] (参照) ボタンをクリックします。  

ヒント：RIA ウィンドウコンポーネントは、[プロパティ] (Properties) ウィンドウでは、「window1<DIV>」として表示されます。

[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) ダイアログボックスが開きます。
- j.** [アニメータの位置] (Location Animator) のチェックをオンにして、位置の設定を有効にします。
- k.** コントロールから [button1] を選択し、このドロップダウンリストを有効にします。

これにより、実行時にプッシュボタンをクリックすることで、このウィンドウをアクティブにすることが指定されます。

- l.** [開始位置] (From Position) の [左] (Left) の値として、「10」と入力します。

これにより、ウィンドウにアニメーションが設定される際に、アニメーションの開始位置は、ページの左から 10 ピクセルに指定されます。

- m.** [OK] をクリックし、[アニメーションのプロパティ] (Animation Properties) ダイアログボックスを閉じます。

#### **4.** RIA アコーディオンコントロールコンポーネントを作成します。

- a.** [RIA コンポーネント] (RIA Components) ツールバーから、[アコーディオンコントロール] (Accordion Control) ボタンを選択します。
- b.** [デザイン] (Design) タブの作業領域で、アコーディオンコントロールを左クリックし、RIA ウィンドウコンポーネントの下部をドラッグします。
- c.** マウスボタンを離し、オブジェクトのサイズを変更します。
- d.** [プロパティ] (Properties) ウィンドウで、[選択ページタイトル] (Selected Page Title) プロパティのテキストボックスに「Sales Graph」と入力することで、アコーディオンで選択したページの名前を変更します。

**ヒント：**RIA アコーディオンコントロールコンポーネントは、[プロパティ] (Properties) ウィンドウでは、「accordion1<DIV>」として表示されます。

- e.** [デザイン] (Design) タブで、[コンポーネント] (Components) ツールバーから [フレーム] (Frame) ボタンを選択し、アコーディオンオブジェクト内をドラッグしてから、マウスボタンを離し、アコーディオンページ内のフレームオブジェクトのサイズを変更します。

**注意：**フレームコントロールコンポーネントは、[プロパティ] (Properties) ウィンドウのドロップダウンリストでは、「iframe1<IFRAME>」として表示されます。これは、RIA ウィンドウに表示されるドリルダウンレポートの [ターゲットフレーム] (Target Frame) の位置として割り当て済みの名前です。

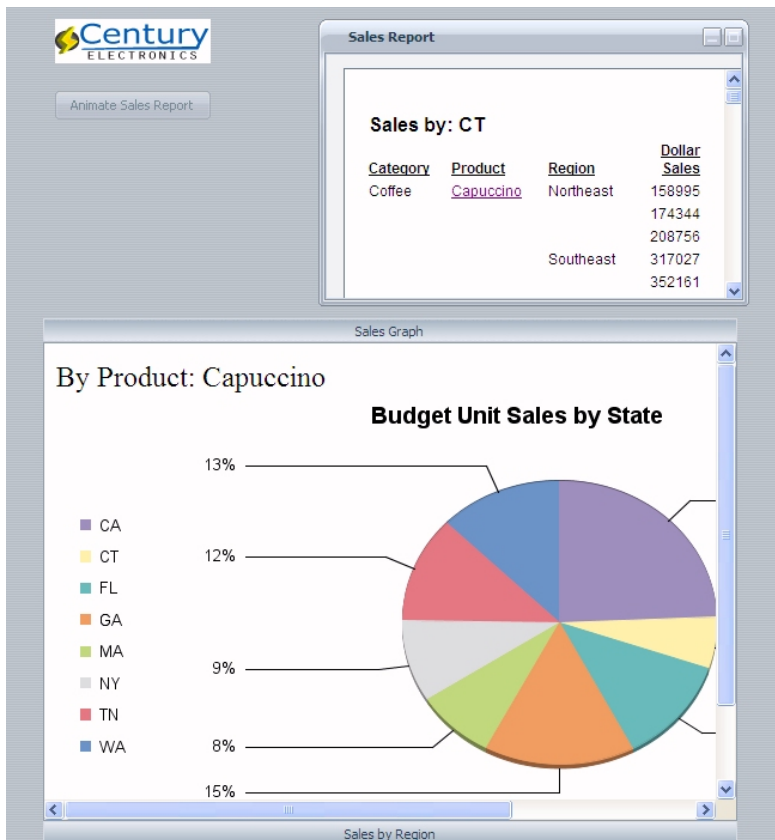
- f.** フレームコンポーネントを選択し、[プロパティ] (Properties) ウィンドウの [自動調整] (Auto Fit) プロパティを [True] に設定します。
- g.** アコーディオンコンポーネントを右クリックし、コンテキストメニューから [次のページを選択] (Select next page) を選択します。

アコーディオンコントロールで、次のページが選択されます。



- h.** [プロパティ](Properties) ウィンドウで、[選択ページタイトル](Selected Page Title) プロパティのテキストボックスに、「Sales by Region」と入力します。
  - i.** [デザイン](Design) タブを下方へスクロールし、Shift キーを押しながら、既存のレポートおよびコントロールを選択します。
  - j.** Alt キーを押しながら、選択したコンポーネントをアコーディオンページにドラッグし、マウスボタンを離します。  
  
「Sales by Region」アコーディオンページに、レポートとコントロールが追加されます。必要な場合は、オブジェクトのサイズを変更します。
  - k.** 使用しないページを選択して右クリックし、コンテキストメニューを表示して削除します。
- 5.** RIA を保存して実行します。

下図は、実行時の RIA を示しています。



# インデックス

## A

- active chart 53
- active dashboard
  - エクスポート 72
  - スケジュール 74
  - 配信 74
- active report の同期 53
- active report のバインド 53
- active report のプロパティと設定ダイアログボックス 61
- active report のリフレッシュ 69

## H

- HTML レイアウト
  - エクスポート 72

## R

- RIA コンポーネント
  - ツールバー 81, 87

## あ

- アコーディオンコントロール 87
- アニメーションのプロパティ 94
- アニメーションのプロパティダイアログボックス 94
- アニメータの位置 96

- アニメータのサイズ 97
- アニメータの透明度 98

## う

- ウィンドウコントロール 86
  - 最小化 86
- ウィンドウコントロールの最小化 86

## お

- オブジェクトの削除 58
- オブジェクトの同期 53
- オブジェクトのバインド 53

## こ

- コントロール
  - active 59, 60, 64, 69
  - 連鎖 8

## し

- 自動連鎖 9
- 自動連鎖コントロール 9
- 条件
  - アクション 28
  - 値の比較演算子 29
  - キャッシュ処理 40
  - 新規 27

条件 (続く)

パラメータの解決 38

パラメータ比較演算子 39

複数選択演算子 30

新規パラメータダイアログボックス 9

つ

ツールバー

RIA コンポーネント 81

と

同期レポート 56

は

パラメータタブ 18

パラメータ値

active report 61

ふ

プロシージャとしてエクスポート 73, 74

制限事項 74

プロパティ 57

プロパティと設定ダイアログボックス

条件 24

り

リッチインターネットアプリケーション (RIA) 75,  
76, 78, 81, 102, 107

ウィンドウコンポーネント 81

オブジェクトへのアニメーションの設定 78

コンポーネントの追加 78

使用上の注意 102

テーマの適用 76

ページの作成 78

例 107

れ

レポート

同期 56

プロパティ 57

連鎖 8, 9, 20, 24, 27

コントロール 8

自動 9

条件 24

新規条件 27

連鎖の削除 20

連鎖の解除 20

連鎖コントロール 14, 18, 20, 42

逆順ソート 20

入力 42

連鎖論理 24